Oracle® Developer Studio 12.5: インストールガイド

Part No: E71945
2016 年 7 月

ORACLE

Part No: E71945

Copyright © 2014, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)か、聴覚に障害のあるお客様は (http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用法 9

1 インストールオプションの概要 11
インストールオプションとプラットフォームの比較 11

2 Oracle Solaris 10 および Linux への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール 13
Oracle Solaris 10 および Linux でのインストールタスク 13
インストーラのローカル表示とリモート表示の選択 14
▼ リモート表示によるインストールを準備する方法 14
NFS マウント済みファイルシステムへのインストール 15
▼ NFS マウント済みファイルシステムへの Oracle Developer Studio ソフトウェアのインストールを準備する方法 16
インストール方法の選択 16
Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームでのインストーラの使用 17
▼ グラフィカルインストーラを使用した Oracle Solaris 10 または Linux へのインストール方法 18
▼ コマンド行インストーラを使用したインストール方法 20
必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール 21
Oracle Solaris 10 および Linux への実行時ライブラリのみのインストール 22
▼ グラフィカルインストーラを使用した実行時ライブラリのインストール方法 23
▼ コマンド行インストーラを使用した実行時ライブラリのインストール方法 23

3 Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール 25
Oracle Solaris 11 でのインストールタスク 25
IPS パッケージのインストールに必要な特権の確認 26
Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新 26
`sunpro-incorporation` パッケージのロック解除 28
新しいブート環境での `sunpro-incorporation` パッケージの更新 29

sunpro-incorporation パッケージの再ロック 29
Oracle Solaris 11 の更新シナリオ例 30
証明書と鍵のダウンロード 41
Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール 41
▼ パッケージリポジトリから Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法 42
Oracle Solaris 11 への実行時ライブラリのみのインストール 46

4 tar ファイルからの Oracle Developer Studio 12.5 のインストール 49
tar ファイルからの Oracle Developer Studio 12.5 のダウンロードとインストール 49
▼ tar ファイルから Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法 49

5 Oracle Developer Studio 12.5 のインストール後 51
開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定 51
Oracle Developer Studio 12.5 のインストールのテスト 52
▼ インストールのテスト方法 52
▼ システムパッチまたは更新のインストールのテスト方法 53
Oracle Developer Studio 12.5 の開始 54

6 Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのアンインストール 55
Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームからの Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのアンインストール 55
以前のリリースの Oracle Developer Studio または Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合のアンインストール 55
アンインストーラのローカル表示とリモート表示の選択 56
アンインストーラを使用したソフトウェアのアンインストール 57
Oracle Solaris 11 プラットフォームからの Oracle Developer Studio 12.5 のアンインストール 58
Oracle Developer Studio 12.5 の tar インストールのアンインストール 58

7 インストールとアンインストールのトラブルシューティング 59
一時ディレクトリがすべてのユーザーによる書き込みが可能でない場合にグラフィカルインストーラが失敗する 59
一時ディレクトリが /usr/local にある場合に Oracle Linux でのインストールが失敗する 60
グラフィカルインストーラの起動時に、GNOME エラーが発生することがある 60
インストーラのロックファイルが原因でインストーラを起動できない場合がある 60

失敗したインストールまたはアンインストールの対処 60
アンインストーラを使用して失敗したアンインストールの対処 61
▼ Oracle Solaris 10 プラットフォームで失敗したインストールまたはアンインストールの対処 61
▼ Linux プラットフォームで失敗したインストールまたはアンインストールの対処 62
NFS マウント済みファイルシステムでは、書き込み権限が設定されていない場合、インストールが失敗する 63
インストールログファイルの表示 63

A Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームのインストーラ、アンインストーラ、`install_patches` ユーティリティーのコマンド行オプション 65
グラフィカルインストーラのコマンド行オプション 65
コマンド行インストーラのコマンド行オプション 66
アンインストーラのコマンド行オプション 67
`install_patches.sh` ユーティリティーのコマンド行オプション 68

B Oracle Developer Studio でのコンポーネントとパッケージ名 69

C Oracle Solaris 10 プラットフォームのパッチ識別番号と説明 73

D Oracle Developer Studio 12.5 コンポーネントのバージョン番号 75

索引 77

このドキュメントの使用法

- **概要** – 次のタスクの実行方法について説明します。
  - パッケージインストーラを使用して、Oracle Solaris 10 プラットフォームおよびサポート対象の Linux プラットフォームに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールする
  - Oracle Solaris 10 プラットフォームに必要な Oracle Solaris 10 パッチをインストールする
  - Image Packaging System (IPS) で `pkg` コマンドを使用して、Oracle Solaris 11 プラットフォームに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールする
  - tar ファイルを使用して、サポート対象のプラットフォームに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールする
  - Oracle Solaris 10 プラットフォームおよびサポート対象の Linux プラットフォームから Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをアンインストールする
  - Oracle Solaris 11 プラットフォームから Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをアンインストールする
- **対象読者** – アプリケーション開発者、システム開発者、アーキテクト、サポートエンジニア
- **必要な知識** – プログラミング経験、ソフトウェア開発テスト、ソフトウェア製品の構築およびコンパイルを行う能力

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは http://docs.oracle.com/cd/E60778_01 で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを http://www.oracle.com/goto/docfeedback からお聞かせください。

♦ ♦ ♦ 第 1 章

1 インストールオプションの概要

Oracle Developer Studio は、ニーズとシステムプラットフォームに応じてさまざまな方法でインストールできます。この章では、インストールオプションについて説明します。

インストールオプションとプラットフォームの比較

次の表に、インストールオプションの比較を示します。

表 1 各プラットフォームのインストールオプション

インストールオプション	プラットフォーム	サポートの利用可	詳細情報
グラフィカルインストーラ	Oracle Solaris 10 Oracle Linux Red Hat Linux	はい	第2章「Oracle Solaris 10 および Linux への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」
コマンド行インストーラ	Oracle Solaris 10 Oracle Linux Red Hat Linux	はい	第2章「Oracle Solaris 10 および Linux への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」
IPS パッケージのインストール	Oracle Solaris 11.3	はい	第3章「Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」
tar ファイル	すべてのプラットフォーム	更新またはパッチなし	第4章「tar ファイルからの Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」

♦ ♦ ♦ 第 2 章

Oracle Solaris 10 および Linux への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール

この章では、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのインストール方法について説明します。

Oracle Solaris 10 および Linux でのインストールタスク

次の表に、Oracle Solaris 10 および Linux に Oracle Developer Studio 12.5 をインストールするために実行する必要のあるタスクの順序を示します。

注記 - 使用しているプラットフォーム用の Oracle Developer Studio 12.5 ディストリビューションをまだダウンロードしていない場合は、Oracle Developer Studio Web ページのダウンロードセクションから入手し、`/var/tmp` などの一時的な *download-directory* に保存できます。

表 2 Oracle Solaris 10 および Linux に Oracle Developer Studio をインストールするためのタスクマップ

タスク	参照先
1. Oracle Developer Studio 12.5 のインストール先のシステムが、このリリースのハードウェアおよびオペレーティングシステムの最低要件を満たしていることを確認します。	『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「システム要件」
2. 必要なシステムソフトウェアパッケージがシステムに存在することを確認します。	『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「必要なシステムソフトウェアパッケージ」
3. ローカル表示とリモート表示のどちらでインストーラを使用するかを決定します。	14 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」
4.(オプション) ネットワークにインストールする場合、NFS ファイルシステムへのインストールを準備します。	15 ページの「NFS マウント済みファイルシステムへのインストール」
5. 対話型のグラフィカルインストーラを使用するか、非対話型のコマンド行インストーラを使用するかを決定します。	16 ページの「インストール方法の選択」
6. Oracle Developer Studio パッケージをインストールします。	17 ページの「Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームでのインストーラの使用」
7. 必要な OS パッチをインストールします。	21 ページの「必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール」

タスク	参照先
8.(オプション) Oracle Developer Studio によって構築されたアプリケーションを実行するが、Oracle Developer Studio がインストールされていないシステムに、実行時ライブラリと必要な OS パッチをインストールします。	22 ページの「Oracle Solaris 10 および Linux への実行時ライブラリのみのインストール」 21 ページの「必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール」

インストーラのローカル表示とリモート表示の選択

このセクションは、Oracle Solaris 10 または Linux システムでグラフィカルインストーラまたはコマンド行インストーラを使用してソフトウェアをインストールする予定のユーザーに対応しています。

Oracle Developer Studio ソフトウェアのインストール中は、インストーラをローカル表示またはリモート表示のいずれかに設定できます。

- *ローカル表示*。ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが同じです。グラフィカルインストーラウィンドウまたはコマンド行インストーラのメッセージは、ダウンロードファイルを格納し、インストーラを実行する同じコンピュータに表示されます。
- *リモート表示*。ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが別々です。ソースコンピュータはダウンロードしたファイルを格納し、インストーラを実行します。ディスプレイコンピュータには、グラフィカルインストーラウィンドウまたはコマンド行インストーラメッセージが表示されます。リモート表示を使用してインストールするには、14 ページの「リモート表示によるインストールを準備する方法」を参照してください。

▼ リモート表示によるインストールを準備する方法

1. **ソースコンピュータとディスプレイコンピュータの両方で次のコマンドを入力します。**

   ```
   % hostname
   ```

   このホスト名が以降の手順で使用されます。

2. **ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力します。**

   ```
   % xhost + source-computer-name
   ```

   source-computer-name には、ソースコンピュータ (ダウンロードしたファイルを格納するコンピュータ) で `hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

   `xhost` コマンドは、ソースコンピュータで実行しているプログラムが、ディスプレイコンピュータ上の X サーバーに、その表示を送信できるようにします。

3. **`ssh -X` を使用してソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (ルート) になります。**

-X オプションを付けて ssh を使用すると、X ディスプレイコンテンツをディスプレイコンピュータに戻すことができます。ソースコンピュータは、リモートからルートとしてログインすることを許可していない可能性があるので、下に示すように、自身のユーザー名を使用してログインし、ソースコンピュータへの接続後にルートになる必要があります。

```
% ssh -X source-computer-name
Password: your password-on-source-computer
% su
Password: root-password-on-source-computer
```

4. **ソースコンピュータで、DISPLAY 変数をディスプレイコンピュータに設定します。**

   C シェルを使用する場合は、次のように入力します。

   ```
   # setenv DISPLAY display-computer-name:n.n
   ```

   Bourne シェルを使用する場合は、次のように入力します。

   ```
   # DISPLAY=display-computer-name:n.n

   # export DISPLAY
   ```

   Korn シェルを使用する場合は、次のように入力します。

   ```
   # export DISPLAY=display-computer-name:n.n
   ```

   display-computer-name:*n.n* には、ディスプレイコンピュータで hostname コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

   ディスプレイコンピュータで echo $DISPLAY と入力すると、2.0 のようなディスプレイ番号を確認できます。

NFS マウント済みファイルシステムへのインストール

NFS マウント済みファイルシステムに Oracle Developer Studio ソフトウェアをインストールするには、NFS パーティションがマウントされている場所に関係なく、Oracle Developer Studio システム要件を満たしているシステムでインストーラを実行する必要があります。『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「システム要件」を参照してください。

注記 - NFS マウント済みファイルシステムとして製品イメージを共有するには、Oracle Developer Studio システム要件を満たしたサーバーからこれをエクスポートする方法が最善です。サーバーでインストーラを実行し、ソフトウェアがインストールされているディレクトリを共有設定します。次の NFS インストール手順は、NFS サーバーが製品でサポートされているプラットフォームで*ない*場合にのみ使用します。

次の手順では、サーバーは、インストールするソフトウェアが置かれる物理ディスクのあるマシン、クライアントは、インストーラを実行してサーバーから共有ファイルシステムを NFS マウントするマシンです。

▼ NFS マウント済みファイルシステムへの Oracle Developer Studio ソフトウェアのインストールを準備する方法

この手順では、インストーラを実行するクライアントマシンとファイルシステムを共有する方法について説明します。

1. **ファイルサーバーで、クライアントマシンのルートが、共有されるファイルシステムへの完全なアクセス権を持つことができるようにするオプションを使用して、ファイルシステムを共有します。**

   share -F nfs -o root=*client-machine*,**rw** *filesystem*

2. **クライアントマシンで、読み取り/書き込みアクセス権付きで共有ファイルシステムをマウントします。**

   mount *server-machine:filesystem installation-directory*

インストール方法の選択

インストーラスクリプトを使用して、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアパッケージを Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームにインストールする方法は 2 つあります。

インストール方法	説明
対話型のグラフィカルモード	グラフィカルインストーラは、一連のインストール手順ページを表示するインストールウィザードです。どのページでも、終了、前の手順に戻る、または次の手順に進む操作をできます。インストールディレクトリと、インストールする Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをコンポーネント単位で選択できます。または、インストーラを実行して実行時ライブラリのみをインストールできます。
非対話型のコマンド行モード	パッケージインストーラの非対話型のコマンド行モードは、メッセージを表示せずに、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのすべてのコンポーネントまたは指定したコンポーネントをインストールしたり、実行時ライブラリだけをインストールします。

Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームでのインストーラの使用

使用しているプラットフォーム用の Oracle Developer Studio 12.5 ディストリビューションをまだダウンロードしていない場合は、Oracle Developer Studio Web ページのダウンロードセクションから入手し、`/var/tmp` などの一時的な *download-directory* に保存できます。

Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをシングルユーザーシステムにインストールできます。または、同じアーキテクチャーのクライアントシステムで使用できるようにサーバーにソフトウェアをインストールできます。

ヒント - ネットワークからのインストールにはかなりの時間がかかることがあります。可能であれば、ソフトウェアをインストールする予定の各システムにインストールバンドルのコピーを作成し、インストーラをローカルで実行してください。

インストールする前に、次の表で、考慮の必要なインストーラのインストール条件およびオプションを確認してください。

表 3 Oracle Solaris 10 および Linux での Oracle Developer Studio の特殊なインストール条件

インストール条件	手順
非大域ゾーンでのインストール	Oracle Solaris 10 システムのゾーンにソフトウェアをインストールするには、そのゾーンでインストーラを実行します。 大域ゾーンでインストールを行い、ソフトウェアをそのゾーンのみで使用できるようにするには、グラフィカルインストーラの「現在のゾーンのみでインストールする」チェックボックスのチェックマークを付けるか、コマンド行インストーラの起動時に `--current-zone-only` オプションを指定します。
異なるアーキテクチャーのクライアントで使用するための Oracle Solaris サーバーへのインストール	異なるアーキテクチャーのクライアントシステムで使用できるように、Oracle Solaris 10 を実行しているサーバーに Oracle Developer Studio ソフトウェアをインストールできます。x86 ベースのクライアントシステムで使用するために SPARC ベースのサーバーにソフトウェアをインストールできます。あるいは、SPARC ベースのクライアントシステムで使用するために x86 ベースのサーバーにソフトウェアをインストールすることもできます。SPARC ベースシステム用のソフトウェアを x86 ベースシステムにインストールするには、またはその逆を行うには、インストーラの起動時に `--ignore-arch` オプションを指定します。
複数システムへのインストール	ソフトウェアを複数システムにインストールするには、グラフィカルインストーラを起動するときに `--record` *state_file*`.xml` オプションを使用してインストールを記録できます。これにより、コマンド行インストーラで `--state` *state_file*`.xml` オプションを指定して、インストールを繰り返すことができます。

インストール条件	手順
代替ルートディレクトリへのインストール	代替ルートディレクトリを使用してソフトウェアをインストールするには、`--use-alternative-root` *directory* オプションを指定してコマンド行インストーラを使用します。
デスクトップシステムへの IDE および他のグラフィカルツールのインストール	グラフィカルインストーラを使用すると、ほぼすべてのオペレーティングシステムのデスクトップシステムでのインストール用に構成された IDE、dbxtool、およびコードアナライザのディストリビューションを格納した zip ファイルを生成するオプションを選択できます。 Oracle Solaris 10 または Linux システムに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールしたあとで、IDE 内の `solstudio --generate-desktop-distr` コマンドまたはメニュー項目を使用して、同じデスクトップディストリビューションを生成できます。 デスクトップシステムでこのディストリビューションファイルを解凍できます。デスクトップシステムでツールを実行すると、これらのツールはディストリビューションを生成したサーバーをリモートホストとして認識し、Oracle Developer Studio サーバーインストール内のツールコレクション (コンパイラ、make ツール、およびデバッガ) にアクセスします。

すべてのコマンド行オプションの詳細は、付録A Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームのインストーラ、アンインストーラ、`install_patches` ユーティリティーのコマンド行オプションを参照してください。

▼ グラフィカルインストーラを使用した Oracle Solaris 10 または Linux へのインストール方法

グラフィカルインストーラを使用すると、インストールディレクトリと、インストールする Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのコンポーネントを選択できます。グラフィカルインストーラを起動するときの有効なコマンド行オプションの一覧については、65 ページの「グラフィカルインストーラのコマンド行オプション」を参照してください。

始める前に インストール前に準備タスクを済ませていることを確認します。13 ページの「Oracle Solaris 10 および Linux でのインストールタスク」を参照してください。

1. **スーパーユーザー (ルート) または権限のあるユーザーになります。**

   ```
   su
   Password: root-password
   ```

2. **次のコマンドのいずれかを使用して、ダウンロードしたディストリビューションを保存したディレクトリに変更します。**

   ```
   # cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-pkg
   ```

```
# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-pkg

# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-linux-x86-rpm
```

3. **インストーラスクリプトを起動します。**

```
# ./developerstudio.sh
```

インストーラは、システムを分析して、Java バージョンが正しいことを確認します。パス上で見つかった Java バージョンが 1.7.0_25 以降の Java バージョンでない場合、警告が表示されますが、インストーラはまだ作業を続行できることがあります。ただし、IDE やパフォーマンスアナライザなどの Java ベースのツールを使用するには、1.7.0_25 以降の Java バージョンが必要です。64 ビットシステムの場合、インストーラが正しく動作するためには、64 ビットの Java を使用する必要があります。

ヒント - 適切な Java バージョンが利用可能であってもパス上にない場合は、「取消し」をクリックし、`developerstudio.sh --javahome` *path-to-java* のオプションを付けて再起動すると、警告を回避できます。

---

4. **「次へ」をクリックして続行します。**

Oracle Developer Studio インストーラには、インストールするソフトウェアのコンポーネントを選択してインストールをカスタマイズするオプションが用意されています。

5. **インストールする個々のコンポーネントを選択するかすべてのコンポーネントを選択して、「次へ」をクリックして続行します。**

6. **ソフトウェアをインストールするディレクトリパスを入力するか参照します。**

デフォルトのインストールディレクトリは `/opt` です。

7. **(オプション) リンクを作成しない場合は、「`/usr/bin` にシンボリックリンクを作成」オプションを選択解除します。**

`/usr/bin` はデフォルトですべてのユーザーのパスにあるので、リンクにより、コンパイラとツールは簡単に見つかります。

8. **(オプション) すべてのゾーンにソフトウェアをインストールする場合は、オプション「Oracle Developer Studio ソフトウェアを現在のゾーンにのみインストール」の選択を解除します。**

このオプションは、ゾーンを含むシステムでインストーラを実行しているときに表示されます。デフォルトで、ソフトウェアは現在のゾーンにのみインストールされます。大域ゾーンでインストーラを実行する場合、現在のゾーンでインストールを実行すると、インストールされた製品は大域ゾーンのみに表示されます。

9. **(オプション) デスクトップオペレーティングシステム用に構成された IDE、dbxtool、およびコードアナライザの zip ファイルディストリビューションを生成する場合、「インストール時にデスクトップ配布を生成」を選択してください。**

生成された zip ファイル `desktop-distribution.zip` は、Oracle Developer Studio インストールの `lib` ディレクトリに置かれます。

10. **「次へ」をクリックして「サマリー」ページに進みます。**
    「サマリー」ページで、インストールするコンポーネントの一覧が正しいこと、およびシステムにインストールのための十分な空き容量があることを確認します。

11. **「インストール」をクリックしてインストールを開始します。**
    インストーラは、インストールの進捗状況を表示し、インストールが完了すると通知します。

12. **「完了」をクリックしてインストーラを終了します。**

次の手順 パッチのインストールの詳細は、21 ページの「必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール」を参照してください。

▼ コマンド行インストーラを使用したインストール方法

デフォルトでは、コマンド行インストーラは、メッセージを表示せずに、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのすべてのコンポーネントをデフォルトのインストールディレクトリ `/opt` にインストールします。

インストーラの起動時に `--install-components` オプションを指定して、インストールするコンポーネントを選択できます。

このオプションに指定できるコンポーネント名のリストについては、`--print-components-description` オプションを使用するか、66 ページの「コマンド行インストーラのコマンド行オプション」を参照してください。

インストーラを `--installation-location` *directory* オプションで起動すると、選択したディレクトリにコンポーネントをインストールできます。コマンド行インストーラを起動するときの有効なコマンド行オプションの一覧については、66 ページの「コマンド行インストーラのコマンド行オプション」を参照してください。

1. **スーパーユーザー (ルート) または権限のあるユーザーになります。**

   ```
   su
   Password: root-password
   ```

2. **次のコマンドのいずれかを使用して、ダウンロードしたディストリビューションを保存したディレクトリに変更します。**

   ```
   # cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-pkg
   ```

   ```
   # cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-pkg
   ```

```
# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-linux-x86-rpm
```

ヒント - デスクトップオペレーティングシステム用に構成された IDE、dbxtool、およびコードアナライザのディストリビューションを含む zip ファイルをインストーラで生成する場合は、次の手順で `--generate-desktop-distr` オプションを含めます。生成された zip ファイルは、Oracle Developer Studio インストールの `lib` ディレクトリに置かれます。

---

3. **非対話型モードでインストーラを起動します。**

```
# ./developerstudio.sh --non-interactive
```

インストーラはメッセージを表示せずに動作し、インストールが完了するとプロンプトを返します。インストールの詳細は、`/.nbi/log` ディレクトリ内のログファイルを参照してください。

インストーラはまた、システムを解析して、Java バージョンが正しいことを確認します。パス上に見つかった Java バージョンが、1.7.0_25 以降の Java バージョンではない場合、IDE やパフォーマンスアナライザなどの Java ベースのツールを使用するには 1.7.0_25 以降の Java バージョンが必要なので、警告が表示されます。64 ビットシステムの場合、インストーラが正しく実行されるためには、64 ビットの Java を使用してください。Java の警告が表示された場合でも、インストールは最後まで行われます。

次の手順 パッチのインストールの詳細は、21 ページの「必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール」を参照してください。

必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール

Oracle Solaris 10 プラットフォームで Oracle Developer Studio 12.5 リリースのコンパイラとツールが正しく動作するためには、いくつかのオペレーティングシステムパッチが必要になります。パッチの詳細は、付録C Oracle Solaris 10 プラットフォームのパッチ識別番号と説明を参照してください。

必要な Oracle Solaris 10 パッチをインストールするには、ダウンロードしたディストリビューションに含まれる `install_patches.sh` ユーティリティーを実行します。

グラフィカルインストーラを実行している場合、システムに必要な OS パッチが存在していないときは、「システム分析」ページに示されます (インストーラの起動時に `--nfs-server` オプションを指定した場合を除く)。「詳細情報」をクリックしてから「install_patches.sh を今すぐ実行」をクリックすると、`install_patches.sh` ユーティリティーを実行できます。

コマンド行インストーラを実行している場合は、インストール後に `install_patches.sh` ユーティリティーを実行して、必要な OS パッチがシステムに存在していることを確認します。

{ENT:ProductName} 12.5 ソフトウェアを Oracle Solaris 10 サーバーにインストールし、クライアントシステムからソフトウェアを使用する予定の場合は、次の操作を実行します。

1. 各クライアントシステムで、パッケージインストーラをダウンロードしたサーバー上のディレクトリをマウントします。

   ```
   # mount server:filesystem download-directory
   ```

2. 次のコマンドのいずれかを使用して、ダウンロードしたディストリビューションを保存したディレクトリに変更します。

   ```
   # cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-pkg

   # cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-pkg

   # cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-linux-x86-rpm
   ```

3. 各 Oracle Solaris 10 クライアントシステムで、`install_patches.sh` ユーティリティーを実行して、必要な Oracle Solaris 10 パッチをインストールします。

   ```
   # ./install_patches.sh
   ```

パッチのインストールが完了したら、ユーザーアクセスの設定とインストールのテストの詳細について、第5章「Oracle Developer Studio 12.5 のインストール後」を参照してください。

別のシステムに実行時ライブラリをインストールする必要があるかどうかを判断するには、22 ページの「Oracle Solaris 10 および Linux への実行時ライブラリのみのインストール」を参照してください。

Oracle Solaris 10 および Linux への実行時ライブラリのみのインストール

必要な実行時ライブラリは、Oracle Solaris 10 および Linux に Oracle Developer Studio 12.5 をインストールするときに自動的にインストールされます。

Oracle Developer Studio はインストールされないが、実行時ライブラリが必要になるシステムに、インストーラを使用してライブラリを別にインストールすることもできます。

- 実行時ライブラリは、Oracle Developer Studio 12.5 を使用して構築されたアプリケーションが実行されるすべてのシステムにインストールする必要があります。
- 大域ゾーンに実行時ライブラリをインストールする場合、非大域ゾーンにもインストールする必要が生じることもあります。
- Oracle Developer Studio のインストールが NFS で共有される場合、NFS クライアントで共有インストールを使用する前に、実行時ライブラリを NFS クライアントシステムにインストールする必要があります。

注記 - インストーラを実行してシステムにライブラリだけをインストールし、後からシステムにすべての Oracle Developer Studio リリースをインストールすることにした場合、最初にアンインストーラを実行して、ライブラリをアンインストールする必要があります。

グラフィカルインストーラとコマンド行インストーラを使用する手順については、以降のセクションを参照してください。

▼ グラフィカルインストーラを使用した実行時ライブラリのインストール方法

1. **次のように入力して、スーパーユーザー (ルート) になります。**

```
su
Password: root-password
```

2. **次のコマンドのいずれかを使用して、ダウンロードしたディストリビューションを保存したディレクトリに変更します。**

```
# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-pkg

# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-pkg

# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-linux-x86-rpm
```

3. **`--libraries-only` オプションを使用してインストーラを起動します。**

```
# ./developerstudio.sh --libraries-only
```

4. **「Oracle Developer Studio インストーラ」ページで「次へ」をクリックします。**

5. **ライブラリをデフォルトのインストールディレクトリ `/opt` にインストールしない場合は、「Oracle Developer Studio インストール」ページで別のインストールディレクトリを指定します。**
   「サマリー」ページには、ライブラリがインストールされる場所と必要な容量が示されます。

6. **「インストール」をクリックしてインストールを開始します。**
   インストールが完了すると、「セットアップ完了」ページが表示されます。

7. **「完了」をクリックしてインストーラを終了します。**

▼ コマンド行インストーラを使用した実行時ライブラリのインストール方法

始める前に 必要な Oracle Solaris 10 パッチがシステムに存在していることを確認します。付録C Oracle Solaris 10 プラットフォームのパッチ識別番号と説明を参照してください。

1. **次のように入力して、スーパーユーザー (ルート) になります。**

```
% su
Password: root-password
```

2. 次のコマンドのいずれかを使用して、ダウンロードしたディストリビューションを保存したディレクトリに変更します。

```
# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-pkg

# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-pkg

# cd download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-linux-x86-rpm
```

3. 次のように入力して、インストーラを起動します。

```
# ./developerstudio.sh --non-interactive --libraries-only
```

4. インストーラはメッセージを表示せずに動作し、インストールが完了するとプロンプトを返します。これにより `/.nbi/log` ディレクトリにログファイルが書き込まれます。

♦ ♦ ♦ 第 3 章

3 Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール

この章では、Oracle Solaris 11 に Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法について説明します。

Oracle Solaris 11 でのインストールタスク

次の表に、Oracle Solaris 11 に Oracle Developer Studio 12.5 をインストールするために実行する必要のあるタスクの順序を示します。

表 4 Oracle Solaris 11 に Oracle Developer Studio をインストールするためのタスクマップ

タスク	参照先
1. システムがシステム要件を満たしていることを確認します。	『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「システム要件」
2. 必要なシステムソフトウェアパッケージがシステムに存在していることを確認します。	『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「必要なシステムソフトウェアパッケージ」
3. システムにソフトウェアをインストールする権限があることを確認します。	26 ページの「IPS パッケージのインストールに必要な特権の確認」
4. Oracle Developer Studio が必要とするシステムライブラリを Oracle Solaris 11 にインストールします。	26 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新」
5. 証明書と鍵をダウンロードしてインストールし、Oracle Developer Studio IPS パッケージのパブリッシャーを追加します。	41 ページの「証明書と鍵のダウンロード」
6. Oracle Developer Studio パッケージをインストールします	41 ページの「Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」
7.(オプション) Oracle Developer Studio によって構築されたアプリケーションを実行するが、Oracle Developer Studio がインストールされていないシステムに、実行時ライブラリと必要なシステムライブラリをインストールします。	46 ページの「Oracle Solaris 11 への実行時ライブラリのみのインストール」 26 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新」

IPS パッケージのインストールに必要な特権の確認

次の方法を使用して、IPS パッケージをインストールするための権限があることを確認してください。

- `profiles` コマンドを使用して、自分に割り当てられている権利プロファイルを一覧表示します。

  Software Installation 権利プロファイルがある場合は、スーパーユーザーにならなくても、`pfexec` コマンドを使用してパッケージをインストールおよび更新できます。次に例を示します。

  ```
  $ pfexec pkg install package-name
  ```

  System Administrator 権利プロファイルなど、その他の権利プロファイルもインストール権限を提供します。
- サイトのセキュリティーポリシーに応じて、自分のユーザーパスワードで `sudo` コマンドを使用し、特権コマンドを実行できる場合があります。次に例を示します。

  ```
  $ sudo pkg install package-name
  ```
- `roles` コマンドを使用して、自分に割り当てられている役割を一覧表示します。

  `root` 役割を持つ場合、root パスワードで `su` コマンドを使用して、`root` 役割になることができます。次に例を示します。

  ```
  # pkg install package-name
  ```

インストール特権の詳細は、Oracle Solaris 11.3 Information Library の『Oracle Solaris 11.3 ソフトウェアの追加と更新』を参照してください。

Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新

Oracle Solaris 11 に Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする前に、複数の必要なシステムライブラリが更新されていることを確認する必要があります。これらのライブラリは、Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの `sunpro-incorporation` 連結パッケージに含まれており、Oracle Developer Studio には付属していません。

これらのライブラリは Oracle Developer Studio 自体でも使用されるので、Oracle Developer Studio をインストールする前に、Oracle Solaris 11.3 にライブラリをインストールする必要があります。

Oracle Solaris 11.3 がリリースされたので、Oracle Solaris 11.3 SRU09 で修正された問題に対処するために、`sunpro-incorporation` パッケージの更新バージョンが Oracle Solaris 11 リリースリポジトリに追加されています。

これらの手順では、ユーザーが Oracle Solaris 11 Image Packaging System (IPS) の基本に精通していると想定しています。IPS の簡単なビデオ紹介は、http://download.oracle.com/otndocs/tech/OTN_Demos/IPS/IPS-demo.html で入手できます。

IPS のより広範な対象範囲については、Oracle Solaris 11.3 Information Library の『Oracle Solaris 11.3 ソフトウェアの追加と更新』を参照してください。

サポートリポジトリへのアクセス権を取得するために Oracle Solaris のサポート契約を購入しているかどうかに応じて、次のいずれかの方法を使用して、必要なシステムライブラリを更新します。

Oracle Solaris 11 サポートリポジトリへのアクセス権がある場合:

最新の Oracle Solaris 11.3 Support Repository Update (SRU) にシステムを更新します。Oracle Solaris 11 サポートリポジトリへのアクセスには、Oracle Solaris 11 のサポート契約が必要です。詳細は、Oracle サポートリポジトリからの Oracle Solaris 11 システムの更新方法の記事を参照してください。

30 ページの「例 1: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの Oracle Solaris 11.1 ブートイメージの最新 SRU への更新」のサンプルセッションを参照してください。

Oracle Solaris 11 サポートリポジトリへのアクセス権がない場合:

1. 『Oracle Solaris 11.3 への更新』の説明に従って、http://pkg.oracle.com/solaris/release にある Oracle Solaris 11 リリースリポジトリから Oracle Solaris 11.3 にシステムを更新します。
2. 更新するシステム上で sunpro-incorporation パッケージをロック解除します。28 ページの「sunpro-incorporation パッケージのロック解除」の手順を参照してください。
3. 29 ページの「新しいブート環境での sunpro-incorporation パッケージの更新」の説明に従って、Oracle Solaris 11 リリースリポジトリで提供されるパッケージから sunpro-incorporation パッケージを更新します。Oracle Solaris 11 システムで Java だけを更新する方法の記事に示されたシェルコマンドで "java" の代わりに "sunpro" が使用される場合、プロセスはこの記事で説明されているプロセスに類似します。
4. (オプション) 29 ページの「sunpro-incorporation パッケージの再ロック」の説明に従って、sunpro-incorporation パッケージを再ロックします。

sunpro-incorporation パッケージのロック解除と更新の例は、34 ページの「例 2: Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからの sunpro-incorporation パッケージの更新」のセッションに示されています。

後からシステムを最新の Oracle Solaris 11.3 SRU と同期させることにした場合、その前に、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリへのアクセス権を取得する必要があります。同期の詳細は、38 ページの「例 3: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの sunpro-incorporation の最新 SRU との同期」を参照してください。

sunpro-incorporation パッケージのロック解除

このタスクは、オペレーティングシステム全体を最新の Oracle Solaris 11.3 SRU に更新することなく、Oracle Solaris 11 リリースリポジトリから、Oracle Solaris 11.3 で必要なバージョンのシステムライブラリに更新するために必要になります。

このロック解除手順は、34 ページの「例 2: Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからの sunpro-incorporation パッケージの更新」のセッションで示します。

1. 更新するシステムのルートになります。
2. 次のコマンドを入力することで、Oracle Solaris 11 リリースリポジトリで利用可能な sunpro-incorporation パッケージの最新バージョンを表示させます。

```
# pkg publisher
PUBLISHER      TYPE   STATUS P LOCATION
solaris    origin  online Fhttp://pkg.oracle.com/solaris/release/
# pkg list -af sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                  VERSION            IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation     0.5.11-0.175.3.9.0.2.0   ---
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation     0.5.11-0.175.3.0.0.25.0  i--
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation     0.5.11-0.175.2.1.0.4.0   ---
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation     0.5.11-0.175.2.0.0.37.0  ---
```

3. sunpro-incorporation パッケージのバージョンを確かめ、更新が必要なことを確認します。次のコマンドを入力します。

```
# pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.0.0.25.0    i--
```

   この手順の出力例ではバージョン 0.5.11-0.175.3.0.0.25.0 が表示されていますが、これは、このバージョンが最新のバージョンではなく、パッケージを更新する必要があることを示しています。
4. 次のコマンドを入力して、sunpro-incorporation パッケージをロック解除します。

```
# pkg change-facet facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-incorporation=false
```

   これで、29 ページの「新しいブート環境での sunpro-incorporation パッケージの更新」の説明に従って、sunpro-incorporation パッケージを更新できます。

新しいブート環境での sunpro-incorporation パッケージの更新

Oracle Solaris 11.3 がリリースされたので、Oracle Solaris 11.3 SRU09 で修正された問題に対処するために、sunpro-incorporation パッケージの更新バージョンが Oracle Solaris 11 リリースリポジトリに追加されています。

この手順では、28 ページの「sunpro-incorporation パッケージのロック解除」の説明に従って sunpro-incorporation パッケージをロック解除したあとで、Oracle Solaris 11 リリースリポジトリから、sunpro-incorporation の更新後のバージョンをインストールする方法を示します。

注記 - この手順で示す新しい名前のブート環境の作成はオプションです。--be-name オプションを指定しない場合、バックアップブート環境が作成され、更新は、現在アクティブなブート環境に適用されます。この場合、リブートは必要ありません。

---

1. 更新するシステムのルートになります。
2. 次のように入力して、更新した Oracle Developer Studio 12.5 システムライブラリを含む新しいブート環境を作成します。

```
# be_name=new boot environment name
# pkg update --be-name $be_name sunpro-incorporation
```

sunpro-incorporation パッケージの更新後、41 ページの「証明書と鍵のダウンロード」に進みます。

sunpro-incorporation パッケージの再ロック

sunpro-incorporation パッケージを再ロックすると、システムを更新したあともパッケージは残りのシステムと同期し続けます。

注記 - 最新の Oracle Solaris 11.3 SRU にシステムを更新しなかった場合は、sunpro-incorporation パッケージを再ロックすることはできません。ロック解除のままにする必要があります。このセクションの残りをスキップして、41 ページの「証明書と鍵のダウンロード」に進んでください。

Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからシステムライブラリをインストールするために以前に sunpro-incorporation パッケージをロック解除し、そのあとでサポート契約を取得して、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからシステムを最新の Oracle Solaris 11.3 SRU に更新した場合にのみ、この段階を実行する必要があります。

1. 以前に sunpro-incorporation をロック解除し、そのあとで最新の Oracle Solaris 11.3 SRU に更新したシステムのルートになります。

2. 次のように入力して、更新した Oracle Developer Studio 12.5 実行時ライブラリを含む新しいブート環境を作成します。

```
# pkg change-facet facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-incorporation=true
```

この段階は、38 ページの「例 3: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの sunpro-incorporation の最新 SRU との同期」のセッションで示します。

Oracle Solaris 11 の更新シナリオ例

このセクションでは、次の Oracle Solaris 11 の更新シナリオ例を示します。サポート契約を結んでいない場合は、例 2 だけが関連します。

- 30 ページの「例 1: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの Oracle Solaris 11.1 ブートイメージの最新 SRU への更新」
- 34 ページの「例 2: Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからの sunpro-incorporation パッケージの更新」
- 38 ページの「例 3: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの sunpro-incorporation の最新 SRU との同期」

例 1: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの Oracle Solaris 11.1 ブートイメージの最新 SRU への更新

この例では、Oracle Solaris 11 サポート契約を結んでいるときに、Oracle Solaris 11.1 から最新 SRU へのアップグレードを Oracle Solaris 11 サポートリポジトリから行うための端末セッションを示します。システムのデフォルトパブリッシャーはすでに、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリを指し示すように構成されています。この方法の詳細は、38 ページの「例 3: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの sunpro-incorporation の最新 SRU との同期」を参照してください。

この端末セッションは次のようになります。

- `entire` および `sunpro-incorporation` パッケージの現在インストールされているバージョンを一覧表示します。出力には、Oracle Solaris 11.1 で当初提供されていたバージョンが反映されます。
- Oracle Solaris 11 サポートリポジトリ内にある両方のパッケージの使用可能なバージョンをすべて一覧表示します。出力には、最新の Oracle Solaris 11.2 SRU を反映して、どちらも新しいバージョンが利用できることが示されます。
- システムを Oracle Solaris 11.3 SRU09 に更新します。この更新は、更新の時点で Oracle Solaris 11.1,11.2, と 11.3 について提供されている SRU をすべて含むため、非常に時間がかかります。このセッションでは、現在のブート環境を変更しないで、名前を付けた新しいブート環境でシステムが更新されます。

ここでは示しませんが、いずれかの Oracle S11.1 SRU に含まれるパッケージのインストール中に、システムはいくつかの回復可能なエラーを報告します。Oracle Solaris 11.3 Information Library の『Oracle Solaris 11.3 ご使用にあたって』に記されているように、このエラーメッセージは無視して問題ありません。

```
root@x86box:~# beadm list
BE                     Active Mountpoint Space   Policy Created
--                     ------ ---------- -----   ------ -------
s11.1_example          NR     /          47.67G  static 2014-09-15 09:14
root@x86box:~# pkg list entire
NAME (PUBLISHER)                                   VERSION                    IFO
entire                                             0.5.11-0.175.1.0.0.24.2    i--
root@x86box:~# pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                   VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation          0.5.11-0.175.1.0.0.19.0    i--
root@x86box:~# pkg publisher
PUBLISHER                   TYPE     STATUS P LOCATION
solaris                     origin   online F https://pkg.oracle.com/solaris/support/
root@x86box:~# pkg list -af entire
NAME (PUBLISHER)                                   VERSION                    IFO
entire                                             0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     ---
entire                                             0.5.11-0.175.3.9.0.1.0     ---
entire                                             0.5.11-0.175.3.8.0.7.0     ---
entire                                             0.5.11-0.175.3.8.0.6.0     ---
entire                                             0.5.11-0.175.3.8.0.5.0     ---
...
entire                                             0.5.11-0.175.1.0.0.24.2    ---
...root@x86box:~# pkg list -af sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                   VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation          0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     ---
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation          0.5.11-0.175.3.9.0.1.0     ---
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation          0.5.11-0.175.3.8.0.7.0     ---
...
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation          0.5.11-0.175.1.0.0.19.0    i--
...
root@x86box:~# pkg update --accept --be-name s11.1_example_s11.3sru09
------------------------------------------------------------
Package: pkg://solaris/consolidation/osnet/osnet-incorporation@0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012906Z

License: lic_OTN

...
            Packages to remove:   7
           Packages to install:  90
            Packages to update: 498
           Mediators to change:   2
       Create boot environment: Yes
Create backup boot environment:  No

DOWNLOAD                                  PKGS         FILES    XFER (MB)   SPEED
Completed                               595/595   40141/40141  872.6/872.6  1.2M/s

PHASE                                          ITEMS
```

```
Removing old actions                     7707/7707
Installing new actions                 29119/29119
...
Updating modified actions              30920/30920
Updating package state database              Done
Updating package cache                   505/505
Updating image state                         Done
Creating fast lookup database                Done

A clone of s11.1_example exists and has been updated and activated.
On the next boot the Boot Environment s11.1_example_s11.3sru09 will be
mounted on '/'.  Reboot when ready to switch to this updated BE.


---------------------------------------------------------------------------
NOTE: Please review release notes posted at:

http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E26502&id=SERNS
---------------------------------------------------------------------------

root@x86box:~# beadm list
BE                        Active Mountpoint Space   Policy Created
--                        ------ ---------- -----   ------ -------
s11.1_example             N      /          9.80M   static 2014-09-15 09:14
s11.1_example_s11.3sru09 R      -          53.74G  static 2014-09-15 09:59
root@x86box:~# reboot
Connection to x86box.example.com closed by remote host.
Connection to x86box.example.com closed.
```

システムのリブート後、通常のユーザーとしてログインし、`entire` および `sunpro-incorporation` のパッケージがどちらも更新されていることを確認します。

```
...
Oracle Corporation      SunOS 5.11      11.3    August 2014
(x86box)% beadm list
BE                        Active Mountpoint Space   Policy Created
--                        ------ ---------- -----   ------ -------
s11.1_example             -      -          12.35M  static 2014-09-15 09:14
s11.1_example_s11.3sru09 NR     /          53.99G  static 2014-09-15 09:59
(x86box)% pkg list entire
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
entire                                            0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
(x86box)% pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
(x86box)%
```

グループパッケージ `develoepr-studio-utilities` をチェックします。

```
(x86box)% pkg info developer-studio-utilities
pkg: info: no packages matching the following patterns you specified are
installed on the system.  Try specifying -r to query remotely:

        developer-studio-utilities
```

```
(x86box)% pkg info -r developer-studio-utilities
             Name: group/feature/developer-studio-utilities
          Summary: Developer Support For Oracle Developer Studio
      Description: Tools and runtime support libraries for use with Oracle
                   Developer Studio
…
```

最初のコマンドは、このパッケージがインストールされていないことを示しています。2 番目のコマンドは、このコマンドがリポジトリ内で利用可能であることを示しています。このパッケージを root としてインストールします。

```
root@x86box:~# pkg install -nv developer-studio-utilities
           Packages to install:         4
     Estimated space available:  32.83 GB
Estimated space to be consumed: 460.79 MB
       Create boot environment:        No
Create backup boot environment:        No
          Rebuild boot archive:        No

Changed packages:
solaris
  group/feature/developer-studio-utilities
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031625Z
  system/library/fortran-runtime
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.8.0.3.0:20160425T173815Z
  system/library/studio-runtime
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031646Z
  system/library/sunperf
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:20160229T234219Z

root@x86box:~# pkg install -v developer-studio-utilities
           Packages to install:         4
     Estimated space available:  32.83 GB
Estimated space to be consumed: 460.79 MB
       Create boot environment:        No
Create backup boot environment:        No
          Rebuild boot archive:        No

Changed packages:
solaris
  group/feature/developer-studio-utilities
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031625Z
  system/library/fortran-runtime
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.8.0.3.0:20160425T173815Z
  system/library/studio-runtime
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031646Z
  system/library/sunperf
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:20160229T234219Z

DOWNLOAD                                  PKGS         FILES    XFER (MB)   SPEED
Completed                                  4/4         24/24    48.6/48.6 79.8M/s

PHASE                                          ITEMS
Installing new actions                         93/93
```

```
Updating package state database                 Done
Updating package cache                           0/0
Updating image state                            Done
Creating fast lookup database                   Done
Updating package cache                           1/1
```

例 2: Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからの sunpro-incorporation パッケージの更新

この例では、Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからシステムが Oracle Solaris 11.3 に更新されています。例では、リリースリポジトリから pkg install によって通常インストールされるバージョンよりも新しいバージョンの sunpro-incorporation パッケージがリリースリポジトリに存在することを示します。

この端末セッションは次のタスクを示します。

- 次の点を確認します。
  - システムデフォルトパブリッシャーが Oracle Solaris 11 リリースリポジトリを指していること
  - システムの entire パッケージバージョンが Oracle Solaris 11.3 ビルドのものであること
  - システムの sunpro-incorporation パッケージバージョンが Oracle Solaris 11.3 ビルドのものであること
  - Oracle Solaris 11 リリースリポジトリには、新しいバージョンの sunpro-incorporation が含まれていること。
- sunpro-incorporation パッケージをロック解除します。sunpro-incorporation パッケージをロック解除すると、pkg update が新しいバージョンのパッケージをインストールできるようになります。
- Oracle Solaris 11 リリースリポジトリから sunpro-incorporation パッケージを更新します
- 新しい developer-studio-utilities パッケージを sunpro-incorporation パッケージの下にインストールします
- sunpro-incorporation パッケージの下の更新されたパッケージのバージョン ID を一覧表示します

```
root@x86box:~# pkg publisher
PUBLISHER                   TYPE     STATUS P LOCATION
solaris                     origin   online F http://pkg.oracle.com/solaris/release/
root@x86box:~# pkg list entire
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
entire                                            0.5.11-0.175.3.1.0.5.0     i--
root@x86box:~# pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.0.0.25.0    i--
root@x86box:~# pkg list -af sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     ---
```

```
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.0.0.25.0    i--
root@x86box:~# pkg facet
FACET                                                                 VALUE SRC
root@x86box:~# pkg change-facet facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-
incorporation=false
            Packages to change:   1
     Variants/Facets to change:   1
       Create boot environment:  No
Create backup boot environment: Yes
PHASE                                          ITEMS
Removing old actions                             1/1
Updating package state database                 Done
Updating package cache                           0/0
Updating image state                            Done
Creating fast lookup database                   Done
Updating package cache                           1/1
root@x86box:~# pkg install -nv sunpro-incorporation developer-studio-utilities
           Packages to install:         2
            Packages to update:         9
     Estimated space available:  39.22 GB
Estimated space to be consumed: 352.48 MB
       Create boot environment:        No
Create backup boot environment:       Yes
          Rebuild boot archive:        No

Changed packages:
solaris
  group/feature/developer-studio-utilities
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031625Z
  system/library/studio-runtime
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031646Z
  consolidation/sunpro/sunpro-incorporation
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.25.0:20150621T221505Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012705Z
  developer/assembler
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.25.0:20150621T221506Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012706Z
  developer/library/xprofile
    0.5.11,5.11-0.175.2.0.0.34.0:20140303T132011Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234156Z
  system/library/c++-runtime
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.24.0:20150607T193304Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012707Z
  system/library/fortran-runtime
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.19.0:20150329T155700Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.8.0.3.0:
20160425T173815Z
  system/library/math
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.19.0:20150329T155704Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.8.0.3.0:
20160425T173821Z
  system/library/mmheap
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.7.0:20140930T154145Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234216Z
  system/library/openmp
```

```
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.2.0:20140721T125146Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234217Z
  system/library/sunperf
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.19.0:20150329T155708Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234219Z

root@x86box:~# pkg install -v sunpro-incorporation developer-studio-utilities
           Packages to install:         2
            Packages to update:         9
     Estimated space available:  39.22 GB
Estimated space to be consumed: 352.48 MB
       Create boot environment:        No
Create backup boot environment:       Yes
          Rebuild boot archive:        No

Changed packages:
solaris
  group/feature/developer-studio-utilities
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031625Z
  system/library/studio-runtime
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.3.3.0.2.0:20151117T031646Z
  consolidation/sunpro/sunpro-incorporation
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.25.0:20150621T221505Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012705Z
  developer/assembler
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.25.0:20150621T221506Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012706Z
  developer/library/xprofile
    0.5.11,5.11-0.175.2.0.0.34.0:20140303T132011Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234156Z
  system/library/c++-runtime
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.24.0:20150607T193304Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:
20160528T012707Z
  system/library/fortran-runtime
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.19.0:20150329T155700Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.8.0.3.0:
20160425T173815Z
  system/library/math
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.19.0:20150329T155704Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.8.0.3.0:
20160425T173821Z
  system/library/mmheap
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.7.0:20140930T154145Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234216Z
  system/library/openmp
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.2.0:20140721T125146Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234217Z
  system/library/sunperf
    0.5.11,5.11-0.175.3.0.0.19.0:20150329T155708Z -> 0.5.11,5.11-0.175.3.6.0.3.0:
20160229T234219Z

DOWNLOAD                                  PKGS         FILES    XFER (MB)   SPEED
Completed                                 11/11        91/91    52.4/52.4 13.4M/s

PHASE                                          ITEMS
Removing old actions                           43/43
```

```
Installing new actions                         111/111
Updating modified actions                       56/56
Updating package state database                  Done
Updating package cache                            9/9
Updating image state                             Done
Creating fast lookup database                    Done
Updating package cache                            1/1
root@x86box:~# pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
root@x86box:~# pkg contents -m sunpro-incorporation | grep 175.3
set name=pkg.fmri value=pkg://solaris/consolidation/sunpro/sunpro-incorporation@0.5.11,5.11-
0.175.3.9.0.2.0:20160528T012705Z
depend fmri=developer/assembler@0.5.11-0.175.3.9.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=developer/library/xprofile@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=developer/versioning/sccs@0.5.11-0.175.3.0.0.10.0 type=incorporate
depend fmri=developer/xopen/xcu4@0.5.11-0.175.3.0.0.24.0 type=incorporate
depend fmri=group/feature/developer-studio-utilities@0.5.11-0.175.3.3.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/c++-runtime@0.5.11-0.175.3.9.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/fortran-runtime@0.5.11-0.175.3.8.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/math@0.5.11-0.175.3.8.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/mmheap@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/openmp@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/studio-runtime@0.5.11-0.175.3.3.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/sunperf@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
```

次のコマンドを通常ユーザーとして実行して、次の点を確認します。

- `sunpro-incorporation` パッケージがロック解除されていること。
- `sunpro-incorporation` パッケージが、Oracle Solaris 11.3 SRU9 のバージョンであるバージョン 0.5.11-0.175.3.9.0.2.0 に更新済みであること。
- 1 つ以上の Oracle Solaris 11.3 SRU に含まれていた `sunpro-incorporation` 内のパッケージが、それぞれ最近提供された SRU のバージョンに更新済みであること。
- Oracle Solaris 11.3 の場合と同様に、残りのシステムはバージョン 0.5.11,5.11-0.175.3.1.0.5.0 のままであること。

```
(x86box)% pkg facet
FACET                                                          VALUE SRC
facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-incorporation     False local(x86box)% pkg list
 entire
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
entire                                            0.5.11-0.175.3.1.0.5.0     i--
(x86box)% pkg list -af sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.0.0.25.0    ---
...
(x86box)% pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
(x86box)% pkg contents -m sunpro-incorporation | grep 175.3 | grep -v 175.3.0
set name=pkg.fmri value=pkg://solaris/consolidation/sunpro/sunpro-
incorporation@0.5.11,5.11-0.175.3.9.0.2.0:20160528T012705Z
```

```
depend fmri=developer/assembler@0.5.11-0.175.3.9.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=developer/library/xprofile@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=group/feature/developer-studio-utilities@0.5.11-0.175.3.3.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/c++-runtime@0.5.11-0.175.3.9.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/fortran-runtime@0.5.11-0.175.3.8.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/math@0.5.11-0.175.3.8.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/mmheap@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/openmp@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/studio-runtime@0.5.11-0.175.3.3.0.2.0 type=incorporate
depend fmri=system/library/sunperf@0.5.11-0.175.3.6.0.3.0 type=incorporate
```

注記 - `studio-runtime` および `developer-studio-utilities` パッケージは新しい「グループ」パッケージであり、その提供目的は、Oracle Developer Studio 実行時ライブラリおよび UNIX ユーティリティー (`make`、sccs、アセンブラなど) を、以前のインストールでそれらを含んでいなかったマシン上にインストールするタスクを単純化することです。最初に標準的な Oracle Solaris サーバー構成を使ってインストールされたマシンでは、このような状況が頻繁に発生します。

例 3: Oracle Solaris 11 サポートリポジトリからの `sunpro-incorporation` の最新 SRU との同期

この例では、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリから、34 ページの「例 2: Oracle Solaris 11 リリースリポジトリからの `sunpro-incorporation` パッケージの更新」で使用したシステムを最新 SRU と同期する方法を示します。

注記 - 以前に Oracle Solaris 11 リリースリポジトリから `sunpro-incorporation` パッケージをロック解除して更新し、そのあとでサポート契約を取得して、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリにアクセスしている場合は、必要な作業はこれだけです。

例では、Oracle Technology Network の Oracle サポートリポジトリから Oracle Solaris 11 システムを更新する方法の記事の説明に従って、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリの鍵と証明書が `/var/pkg/ssl` ディレクトリにすでにコピーされていると想定しています。

この端末セッションは次の作業を行う方法を示します。

- 記事の説明に従って、鍵と証明書を使用して、Oracle Solaris 11 サポートリポジトリ `https://pkg.oracle.com/solaris/support` を指し示すようにシステムのデフォルトパブリッシャーを構成する。
- 最新の Oracle Solaris 11.3 SRU にシステムを更新する。
- システムを最新の Oracle Solaris 11 SRU に更新したあと、`sunpro-incorporation` パッケージを再ロックする。

前述の例で説明したように、リリースリポジトリから `sunpro-incorporation` パッケージをロック解除し更新した場合でもシステムを Oracle Solaris 11.3 SRU に更新できます。

sunpro-incorporation パッケージは、パッケージバージョンが残りのシステムと同期している場合以外は、ロックできません。この例では、システムはパッケージが再ロックされる前に更新されます。

```
(x86box)% beadm list
BE                       Active Mountpoint Space   Policy Created
--                       ------ ---------- -----   ------ -------
s11.3                      -     -          14.42M   static 2015-10-15 13:14
s11.3_plus_ss12.5_rtlibs NR       /        45.89G  static 2016-06-04 13:03 17:09
(x86box)% pkg list entire
NAME (PUBLISHER)                                    VERSION                    IFO
entire                                              0.5.11-0.175.3.1.0.5.0    i--
(x86box)% pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                    VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation           0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
(x86box)% su - root
Password:
...
root@x86box:~# pkg publisher
PUBLISHER                   TYPE     STATUS P LOCATION
solaris                     origin   online F http://pkg.oracle.com/solaris/release/
root@x86box:~# ls -l /var/pkg/ssl
total 6
-rw-r--r--   1 root     root         786 Sep  9 15:44 pkg.oracle.com.key.certificate.pem
-rw-r--r--   1 root     root         887 Sep  9 15:44 pkg.oracle.com.key.pem
root@x86box:~# pkg set-publisher \
>  -k /var/pkg/ssl/pkg.oracle.com.key.pem \
>  -c /var/pkg/ssl/pkg.oracle.com.key.certificate.pem \
>  -g https://pkg.oracle.com/solaris/support/ \
>  -G http://pkg.oracle.com/solaris/release/ solaris
root@x86box:~#
root@x86box:~# pkg publisher
PUBLISHER                   TYPE     STATUS P LOCATION
solaris                     origin   online F https://pkg.oracle.com/solaris/support/
root@x86box:~# beadm list
BE                       Active Mountpoint Space   Policy Created
--                       ------ ---------- -----   ------ -------
s11.3                      -     -          14.42M   static 2015-10-15 13:14
s11.3_plus_ss12.5_rtlibs NR     /          46.00G  static 2016-06-04 13:03
root@x86box:~# pkg update --accept --be-name s11.3_sru09 entire
...
A clone of s11.3_plus_ss12.5_rtlibs exists and has been updated and activated.
On the next boot the Boot Environment s11.3_sru09 will be
mounted on '/'.  Reboot when ready to switch to this updated BE.

Updating package cache                           1/1
root@x86box:~# beadm list
BE                       Active Mountpoint Space   Policy Created
--                       ------ ---------- -----   ------ -------
s11.3                      -     -          14.42M   static 2015-10-15 13:14
s11.3_plus_ss12.5_rtlibs -      -          10.15M  static 2016-06-04 13:03
s11.3_sru09              NR     /          47.83G  static 2016-06-04 13:23
root@x86box:~# reboot
Connection to x86box.example.com closed by remote host.
```

```
Connection to x86box.example.com closed.
...
```

この端末セッションは、通常ユーザーとして次の点を確認する方法を示します。

- システムが Oracle Solaris 11.3 SRU09 に更新されていること。
- `sunpro-incorporation` パッケージが、以前に Oracle Solaris 11 リリースリポジトリから更新したバージョンのままであること。

```
(x86box)% beadm list
BE                      Active Mountpoint Space   Policy Created
--                      ------ ---------- -----   ------ -------
s11.3                     -     -          14.42M   static 2015-10-15 13:14
s11.3_plus_ss12.5_rtlibs -      -          10.15M  static 2016-06-04 13:03
s11.3_sru09             NR     /          47.83G  static 2016-06-04 13:20
(x86box)% pkg list entire
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
entire                                            0.5.11-0.175.3.9.0.4.0     i--
(x86box)% pkg list sunpro-incorporation
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
consolidation/sunpro/sunpro-incorporation         0.5.11-0.175.3.9.0.2.0     i--
```

これでシステム全体のパッケージが更新されたので、`sunpro-incorporation` パッケージは残りのシステムと同期します。

この端末セッションは、システムの残りと同期した `sunpro-incorporation` パッケージをロックしているルートユーザーを示しています。

```
(x86box)% su - root
Password:
...
root@x86box:~# pkg facet
FACET                                                              VALUE SRC
facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-incorporation     False local
root@x86box:~# pkg change-facet facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-
incorporation=true
            Packages to change:   1
     Variants/Facets to change:   1
       Create boot environment:  No
Create backup boot environment: Yes
PHASE                                          ITEMS
Installing new actions                           1/1
Updating package state database                 Done
Updating package cache                           0/0
Updating image state                            Done
Creating fast lookup database                   Done
Updating package cache                           1/1
root@x86box:~# beadm list
BE                      Active Mountpoint Space   Policy Created
--                      ------ ---------- -----   ------ -------
s11.3                     -     -          14.42M   static 2015-10-15 13:14
s11.3_plus_ss12.5_rtlibs -      -          10.15M  static 2016-06-04 13:03
s11.3_sru09             NR     /          47.83G  static 2016-06-04 13:20
s11.3_sru09-backup-1     -      -          100.0K  static 2016-06-04 14:23
```

```
root@x86box:~# pkg facet
FACET                                                          VALUE SRC
facet.version-lock.consolidation/sunpro/sunpro-incorporation   True  local
root@x86box:~#
```

証明書と鍵のダウンロード

Oracle Solaris 11 システムに Oracle Developer Studio 12.5 インストールするには、Oracle Developer Studio の証明書と鍵が必要です。

Oracle Developer Studio パッケージリポジトリ用の証明書と鍵を以前に取得している場合はこれらを使用できるので、新しく取得する必要はありません。https://pkg-register.oracle.com ページにログインしたあとで、これらを再度ダウンロードできます。

証明書と鍵をダウンロードするには次の手順を行います。

1. https://pkg-register.oracle.com のようこそページで「証明書を要求」をクリックします。
2. 求められた場合は Oracle Online アカウントにサインインします。
3. 使用可能なリポジトリのページで、Oracle Developer Studio の横にあるアクセスの要求をクリックします。

   リポジトリへのアクセスがすでに認められている場合は、詳細の表示をクリックすると、システムでリポジトリを設定する方法の詳細および手順を確認できます。
4. アクセスの要求ページで、いちばん下までスクロールし、同意するをクリックしてライセンス契約に同意します。
5. 製品の詳細ページで、*証明書ページ*のリンクをクリックします。
6. ユーザーの証明書ページで、鍵のダウンロードをクリックして、鍵 `pkg.oracle.com.key.pem` をダウンロードし、ブラウザのデフォルトのダウンロード先に保存します。
7. 証明書のダウンロードをクリックして、証明書 `pkg.oracle.com.certificate.pem` をダウンロードし、ブラウザのデフォルトのダウンロード先に保存します。

これは、クライアントを `pkg.oracle.com` で認証するための鍵と証明書のペアになります。これは、pkg.oracle.com でホストされるすべてのリポジトリに対して有効です。

Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール

Image Packaging System (IPS) を使用して、Oracle Solaris 11 に Oracle Developer Studio 12.5 をインストールします。

Oracle Developer Studio パブリッシャーには、表7「Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名」で示すパッケージが含まれています。パッケージリポ

ジトリからリリース全体をインストールすることも、使用するコンパイラおよびツール用の個別のパッケージをインストールすることもできます。

インストールする前に、次の表で、考慮の必要なインストール条件を確認してください。

表 5 Oracle Developer Studio のインストール条件

インストール条件	手順
非大域ゾーンでのインストール	Oracle Solaris 11 システムの非大域ゾーンにソフトウェアをインストールするには、そのゾーンでインストールコマンドを実行します。
複数システムへのインストール	Oracle Solaris 11 プラットフォームでは、複数のシステムに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールできますが、これを行うには、リモートで各システムにログインして Oracle Developer Studio パブリッシャーからソフトウェアをインストールします。
デスクトップシステムへの IDE および他のグラフィカルツールのインストール	Oracle Solaris 11 プラットフォームに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールしたあと、IDE 内の `devstudio --generate-desktop-distr` コマンドまたはメニュー項目を使用して、ほぼすべてのオペレーティングシステムのデスクトップシステムへのインストール用に構成された IDE、dbxtool、およびコードアナライザのディストリビューションを収めた zip ファイルを生成できます。デスクトップシステムでこのディストリビューションファイルを解凍できます。このシステム上で IDE を実行すると、IDE はディストリビューションを生成したサーバーをリモートホストとして認識し、Oracle Developer Studio サーバーインストール内のツールコレクション (コンパイラ、make ツール、およびデバッガ) にアクセスします。

▼ パッケージリポジトリから Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法

始める前に 25 ページの「Oracle Solaris 11 でのインストールタスク」を参照して、システムにソフトウェアをインストールする権限の確認などの準備タスクを済ませていることを確かめます。

1. **ディレクトリを `/var/pkg` に作成し、`pkg-register.oracle.com` からダウンロードした鍵および証明書を格納します。**

```
% mkdir -m 0775 -p /var/pkg/ssl
```

2. **鍵と証明書をディレクトリにコピーします。**

```
% cp -i download-directory/pkg.oracle.com.key.pem /var/pkg/ssl
% cp -i download-directory/pkg.oracle.com.certificate.pem /var/pkg/ssl
```

3. **Oracle Developer Studio パブリッシャーを追加します。**

```
% pkg set-publisher \
-k /var/pkg/ssl/pkg.oracle.com.key.pem \
-c /var/pkg/ssl/pkg.oracle.com.certificate.pem \
-G '*' -g https://pkg.oracle.com/solarisstudio/release solarisstudio
```

4. Oracle Developer Studio 12.5 パッケージを一覧表示するには、次のように入力します。

```
% pkg list -af 'pkg://solarisstudio/developer/developerstudio-125/*'
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
developer/developerstudio-125/backend (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0             ---
developer/developerstudio-125/c++ (solarisstudio)   12.5-1.0.0.0               ---
developer/developerstudio-125/cc (solarisstudio)    12.5-1.0.0.0               ---
developer/developerstudio-125/code-analyzer (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0       ---
developer/developerstudio-125/dbx (solarisstudio)   12.5-1.0.0.0               ---
developer/developerstudio-125/dbxtool (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0             ---
developer/developerstudio-125/dmake (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0               ---
developer/developerstudio-125/fortran (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0             ---
developer/developerstudio-125/library/c-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0     ---
developer/developerstudio-125/library/c++-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0     ---
developer/developerstudio-125/library/f90-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0     ---
developer/developerstudio-125/library/math-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0    ---
developer/developerstudio-125/library/oic-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0     ---
developer/developerstudio-125/library/perflib (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0      ---
developer/developerstudio-125/library/studio-gccrt (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0 ---
developer/developerstudio-125/oic (solarisstudio)   12.5-1.0.0.0               ---
developer/developerstudio-125/performance-analyzer (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0 ---
developer/developerstudio-125/studio-common (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0        ---
developer/developerstudio-125/studio-ide (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0           ---
developer/developerstudio-125/studio-ja (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0            ---
developer/developerstudio-125/studio-legal (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0         ---
developer/developerstudio-125/studio-zhCN (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0          ---
```

パッケージマネージャーグラフィカルアプリケーションを使用している場合、パッケージマネージャーを再起動したときに、新しく検出されたパッケージを検索できます。

5. インストールされる内容を確認するためにディストリビューション全体のインストールの予行演習を行うには、次のように入力します。

```
# pkg install -nv developerstudio-125
           Packages to install:       23
     Estimated space available: 33.95 GB
Estimated space to be consumed:  2.77 GB
       Create boot environment:       No
Create backup boot environment:       No
          Rebuild boot archive:       No

Changed packages:
solaris
  developer/library/lint
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.1.0.0.20.0:20120709T162225Z
solarisstudio
  developer/developerstudio-125
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181118Z
```

```
  developer/developerstudio-125/backend
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180159Z
  developer/developerstudio-125/c++
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180237Z
  developer/developerstudio-125/cc
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180346Z
  developer/developerstudio-125/code-analyzer
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180351Z
  developer/developerstudio-125/dbx
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180354Z
  developer/developerstudio-125/dbxtool
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180411Z
  developer/developerstudio-125/dmake
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180414Z
  developer/developerstudio-125/fortran
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180438Z
  developer/developerstudio-125/library/c++-libs
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180343Z
  developer/developerstudio-125/library/f90-libs
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180418Z
  developer/developerstudio-125/library/math-libs
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180514Z
  developer/developerstudio-125/library/oic-libs
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180527Z
  developer/developerstudio-125/library/perflib
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180826Z
  developer/developerstudio-125/library/studio-gccrt
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181033Z
  developer/developerstudio-125/oic
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180515Z
  developer/developerstudio-125/performance-analyzer
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181016Z
  developer/developerstudio-125/studio-common
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181033Z
  developer/developerstudio-125/studio-ide
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181037Z
  developer/developerstudio-125/studio-ja
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181111Z
  developer/developerstudio-125/studio-legal
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181115Z
  developer/developerstudio-125/studio-zhCN
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181115Z
```

6. **単一のコンポーネントの予行演習を行うには、次のように入力します。**

```
# pkg install -nv developerstudio-125/package-name
```

たとえば C++ コンパイラの場合は次のように入力します。

```
# pkg install -nv developerstudio-125/c++
           Packages to install:        11
     Estimated space available:  33.95 GB
Estimated space to be consumed: 415.39 MB
       Create boot environment:        No
```

```
Create backup boot environment:        No
          Rebuild boot archive:        No

Changed packages:
solaris
  developer/library/lint
    None -> 0.5.11,5.11-0.175.1.0.0.20.0:20120709T162225Z
solarisstudio
  developer/developerstudio-125/backend
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180159Z
  developer/developerstudio-125/c++
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180237Z
  developer/developerstudio-125/cc
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180346Z
  developer/developerstudio-125/library/c++-libs
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180343Z
  developer/developerstudio-125/library/math-libs
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T180514Z
  developer/developerstudio-125/library/studio-gccrt
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181033Z
  developer/developerstudio-125/studio-common
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181033Z
  developer/developerstudio-125/studio-ja
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181111Z
  developer/developerstudio-125/studio-legal
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181115Z
  developer/developerstudio-125/studio-zhCN
    None -> 12.5,5.11-1.0.0.0:20160604T181115Z
```

7. **ディストリビューション全体または特定のパッケージをインストールします。**

   `--accept` オプションを指定してライセンス契約に同意する必要があります。次のようなライセンステキストが表示されます。

```
You acknowledge that your use of Oracle Developer Studio is subject to
the Oracle Developer Studio OTN License Agreement. The OTN License Agreement is
located at :
http://www.oracle.com/technetwork/licenses/solaris-studio-license-169628.html
```

   ■ **すべてのコンパイラとツールを含んだ完全な Oracle Developer Studio 12.5 リリースをインストールするには、次のように入力します。**

```
# pkg install --accept developerstudio-125
```

   ■ **特定のパッケージをインストールするには、次のように入力します。**

```
# pkg install --accept developerstudio-125/package-name developerstudio-125/package-name ...
```

   ここで、*package-name* は、ディストリビューション全体のインストールの予行演習を行なったときに一覧表示されたいずれかのパッケージです。これらのパッケージは、表7「Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名」でも一覧表示されています。

注記 - `studio-gccrt` パッケージをインストールするだけの場合、`--accept` オプションを使用する必要はありません。

次の手順 追加のインストールオプションとヒントについては次のセクションを参照してください。ユーザーアクセスの設定とインストールのテストの詳細は、第5章「Oracle Developer Studio 12.5 のインストール後」を参照してください。

Oracle Solaris 11 への実行時ライブラリのみのインストール

必要な実行時ライブラリは、完全な `developerstudio-125` パッケージをインストールしたときに自動的にインストールされます。

Oracle Developer Studio はインストールされないが、実行時ライブラリが必要になるマシンに、Oracle Developer Studio 実行時ライブラリを別にインストールする必要があります。

- 実行時ライブラリは、Oracle Developer Studio 12.5 を使用して構築されたアプリケーションが実行されるすべてのマシンにインストールする必要があります。
- 大域ゾーンに実行時ライブラリをインストールする場合、非大域ゾーンにもインストールする必要が生じることもあります。
- Oracle Developer Studio のインストールが NFS で共有される場合、NFS クライアントで共有インストールを使用する前に、実行時ライブラリを NFS クライアントシステムにインストールする必要があります。

▼ Oracle Solaris 11 に実行時ライブラリのみをインストールする方法

この手順は、完全なリリースがインストールされていない前述のシステムでのみ必要になります。

始める前に Oracle Solaris 11 システムが、必要なシステムライブラリに更新されていることを確認します。26 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新」を参照してください。

42 ページの「パッケージリポジトリから Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法」の手順 1 から 3 の説明に従って、Oracle Developer Studio パッケージリポジトリを使用するようにシステムが構成されていることを確認します。

システムにソフトウェアをインストールするには特権が必要です。

1. **ルートユーザーまたはソフトウェアをインストールする権限のあるユーザーになります。**
2. **次のように入力して、Oracle Developer Studio 12.5 がまだシステムにインストールされていないことを確認します。**

```
# pkg list 'developer/developerstudio-125/*'
pkg list: No packages matching 'developer/developerstudio-125/*' installed
```

3. **次のように入力して、ライブラリをインストールします。**

```
# pkg install --accept developerstudio-125/library/c++-libs \
developerstudio-125/library/c-libs \
developerstudio-125/library/f90-libs \
developerstudio-125/library/math-libs \
developerstudio-125/library/perflib \
developerstudio-125/library/studio-gccrt
```

次のような出力が表示されます。

```
           Packages to install:  9
       Create boot environment: No
Create backup boot environment: No
DOWNLOAD                                PKGS         FILES    XFER (MB)   SPEED
Completed                                9/9     4872/4872  185.5/185.5 14.1M/s

PHASE                                          ITEMS
Installing new actions                   5189/5189
Updating package state database                Done
Updating package cache                          0/0
Updating image state                           Done
Creating fast lookup database                  Done
Reading search index                           Done
Updating search index                           9/9
Updating package cache                          2/2
```

4. **次のように入力して、インストールしたパッケージを表示します。**

```
# pkg list developer/developerstudio-125/\*
NAME (PUBLISHER)                                  VERSION                    IFO
developer/developerstudio-125/library/c++-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
developer/developerstudio-125/library/c-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0               i--
developer/developerstudio-125/library/f90-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
developer/developerstudio-125/library/math-libs (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
developer/developerstudio-125/library/perflib (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
developer/developerstudio-125/library/studio-gccrt (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0
 i--
developer/developerstudio-125/studio-common (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
developer/developerstudio-125/studio-ja (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0               i--
developer/developerstudio-125/studio-legal (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
developer/developerstudio-125/studio-zhCN (solarisstudio) 12.5-1.0.0.0              i--
```

必要な追加パッケージが自動的にインストールされました。

次の手順 このシステムのユーザーが Oracle Developer Studio 12.5 を使用できることを確認します。第5章「Oracle Developer Studio 12.5 のインストール後」を参照してください。

♦ ♦ ♦ 第 4 章

4 tar ファイルからの Oracle Developer Studio 12.5 のインストール

この章では、任意のプラットフォームで tar ファイルから Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法について説明します。

tar ファイルからの Oracle Developer Studio 12.5 のダウンロードとインストール

次の手順では、Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法について説明します。これらの手順は、Oracle Solaris 10、Oracle Solaris 11、および Linux プラットフォームでのインストールに適用されます。

注記 - tar ファイルからインストールする場合、Oracle から製品のサポートまたはパッチを受けることはできません。サポートが必要な場合は、パッケージインストーラを使用する必要があります。第2章「Oracle Solaris 10 および Linux への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」または第3章「Oracle Solaris 11 への Oracle Developer Studio 12.5 のインストール」を参照してください。

▼ tar ファイルから Oracle Developer Studio 12.5 をインストールする方法

始める前に システムが『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「システム要件」を満たしており、かつ『Oracle Developer Studio 12.5: リリースノート』の「必要なシステムソフトウェアパッケージ」を含んでいることを確認します。

1. **使用しているプラットフォーム用の tar ファイルをまだダウンロードしていない場合は、Oracle Developer Studio 製品ページ のダウンロードセクションにアクセスし、このファイルを `/var/tmp` などの一時的な *download-directory* に保存してください。**

2. **ソフトウェアをインストールするディレクトリに変更します。**

```
% cd install-dir
```

3. **プラットフォームに適したコマンドを使用して tar ファイルを抽出します。**

```
% bzcat download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-bin.tar.bz2 | tar -xf -

% bzcat download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-bin.tar.bz2 | tar -xf -

% bzcat download-directory/OracleDeveloperStudio12.5-linux-x86-bin.tar.bz2 | tar -xf -
```

tar ファイルの内容が `OracleDeveloperStudio12.5-`*OS*`-`*platform*`-bin` という名前のディレクトリに解凍されます。ここで、*OS* は `solaris` または `linux` であり、*platform* は `sparc` または `x86` です。

Oracle Developer Studio 12.5 製品の内容は、次のディレクトリにあります。

install-dir`/OracleDeveloperStudio12.5-`*OS*`-`*platform*`-bin/developerstudio12.5`

4. **(Oracle Solaris 10 のみ) 次の説明に従って、オペレーティングシステムパッチをインストールします。**

`OracleDeveloperStudio12.5-solaris-sparc-bin` および `OracleDeveloperStudio12.5-solaris-x86-bin` ディレクトリには、Oracle Solaris 10 用のパッチをインストールするためのスクリプト `install_patches.sh` が含まれています。

システム管理権限を使用して次のスクリプトを実行します。

```
# install-dir/install_patches.sh
```

5. **(Oracle Solaris 11 のみ) 26 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新」の説明に従って、オペレーティングシステムの更新をインストールします。**

6. **Oracle Developer Studio 12.5 コンパイラおよびツールへのアクセスを設定します。**

   - パス *install-dir*`/OracleDeveloperStudio12.5-`*OS*`-`*platform*`-bin/developerstudio12.5/bin` を `PATH` 環境変数に追加します
   - パス *install-dir*`/OracleDeveloperStudio12.5-`*OS*`-`*platform*`-bin/developerstudio12.5/man` を MANPATH 環境変数に追加します

♦ ♦ ♦ 第 5 章

5 Oracle Developer Studio 12.5 のインストール後

この章では、Oracle Developer Studio 12.5 のインストール後に、インストールが完了したことを確認するために実行できるタスクについて説明します。

- 51 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」
- 52 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 のインストールのテスト」
- 54 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 の開始」

開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定

インストーラで `/usr/bin` および `/usr/share/man` にシンボリックリンクを作成できるようにしなかった場合は、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアを使用できるように、`PATH` および `MANPATH` 環境変数を変更する必要が生じることがあります。

Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアツールおよびマニュアルページへのアクセスを設定する必要があるかどうかを判断するには、Oracle Developer Studio を実行するシステムで次のコマンドを入力します。

```
% which cc
/opt/developerstudio12.5/bin/cc
% man codean
Reformatting page. Please wait... done.

User Commands                                           codean(1)

NAME
     codean - Command Line Interface of Code Analyzer
...
```

`which` コマンドでメッセージ `no cc in` *paths* が返されるか、別のバージョンの `cc` コマンドへのパスが報告された場合は、`PATH` を設定する必要があります。

`man` コマンドで `No manual entry for codean` が返された場合は、`MANPATH` を設定する必要があります。

Oracle Solaris プラットフォームの場合	パス */install-dir*`/developerstudio12.5/bin` を `PATH` 環境変数に追加します。

	パス */install-dir*/developerstudio12.5/man を MANPATH 環境変数に追加します。
Linux プラットフォームの場合	パス */install-dir*/oracle/developerstudio12.5/bin を PATH 環境変数に追加します。 パス */install-dir*/oracle/developerstudio12.5/man を MANPATH 環境変数に追加します。

デフォルトでは、*install-dir* は /opt です。

注記 - LD_LIBRARY_PATH 設定には、ほかのバージョンの Oracle Developer Studio への参照を含めないでください。互換性のないライブラリをパフォーマンスアナライザなどのツールで参照した場合、ツールは失敗する可能性があり、理由の診断が困難になります。

Oracle Developer Studio 12.5 のインストールのテスト

インストールをテストして、システムに適切にインストールされたことを確認できます。インストール内のプログラムが適切に起動しない場合は、60 ページの「失敗したインストールまたはアンインストールの対処」を参照してください。

▼ インストールのテスト方法

インストールをテストするには、いくつかのコマンドを実行します。

1. **パス上の Java のバージョンが 1.7.0_25 以上であることを確認します。**

```
% java -version
java version "1.7.0_45"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.7.0_45-b18)
Java HotSpot(TM) Server VM (build 24.45-b08, mixed mode)
```

2. **パフォーマンスアナライザなどのプログラムのバージョンを確認して、インストールをテストします。**

```
% analyzer -V
analyzer: Oracle Developer Studio Performance Analyzer 12.5 SunOS_i386  2016/06/14
```

3. **パフォーマンスアナライザを起動します。**

```
% analyzer &
```

パフォーマンスアナライザの「ようこそ」ページが表示されます。

▼ システムパッチまたは更新のインストールのテスト方法

この手順では、必要なシステムパッチまたは更新がインストールされていないときに表示されるエラーを示します。

この例では、Oracle Developer Studio は、tar ファイルから、Oracle Solaris 10 システム上のディレクトリ `/export/home/example/developerstudio12.5` にインストールされました。コンパイラは、コンパイラオプションが使用されていない場合に単純なプログラムを正しくコンパイルし、`-O` オプションが使用されている場合にエラーを返します。

1. **次の `hello.c` ファイルのような簡単なプログラムを作成します。**

```
#include <stdio.h>

main()
{
    printf("hello, world\n");
}
```

2. **バージョン情報を示す `-V` 以外のコンパイラオプションを使用せずにプログラムをコンパイルしてから、`a.out` バイナリを実行します。**

```
% cc -V hello.c
cc: Studio 12.5 Sun C 5.14 SunOS_sparc 2016/05/17
acomp: Studio 12.5 Sun C 5.14 SunOS_sparc 2016/05/17
ld: Software Generation Utilities - Solaris Link Editors: 5.11-1.2470

% a.out
hello world
%
```

プログラムはコンパイルし、問題なく実行します。

3. **`-O` オプションを追加して再度コンパイルします。**

```
% cc -O -V hello.c
cc: Studio 12.5 Sun C 5.14 SunOS_sparc 2016/05/17
acomp: Studio 12.5 Sun C 5.14 SunOS_sparc 2016/05/17
compiler(iropt) error:  iropt: dlsym() could not find function _mmheap_createc

/export/home/example/developerstudio12.5/lib/compilers/iropt'quit+0x3e [0x8285dfe]
/export/home/example/developerstudio12.5/lib/compilers/iropt'0x24acfa [0x829acfa]
/export/home/example/developerstudio12.5/lib/compilers/iropt'main+0x17 [0x8341417]
/export/home/example/developerstudio12.5/lib/compilers/iropt'_start+0x72 [0x80947c2]
cc: Fatal error in /export/home/example/developerstudio12.5/lib/compilers/iropt
cc: Status 134
```

必要なシステムライブラリ `/lib/libmmheap.so.1` が更新もインストールもされていないので、エラーが発生します。

次の手順 プログラムを `-O` でコンパイルした場合、これ以上必要な作業はありません。

プログラムがコンパイルされず、同様のエラーが生成された場合、システム管理者は必要な更新またはパッチをインストールする必要があります。

- Oracle Solaris 10 の場合、21 ページの「必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール」を参照してください。
- Oracle Solaris 11 の場合、26 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 が必要とする Oracle Solaris 11 システムライブラリの更新」を参照してください。

Oracle Developer Studio 12.5 の開始

Oracle Developer Studio 12.5 を開始するには、次のドキュメントを参照してください。

『Oracle Developer Studio 12.5: 概要』
『Oracle Developer Studio 12.5 リリースの新機能』

詳細情報やビデオ、記事などを入手するには、Oracle Developer Studio 開発者ポータルにアクセスしてください。

♦ ♦ ♦ 第 6 章

Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのアンインストール

この章には、次の情報が含まれます。

- 55 ページの「Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームからの Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのアンインストール」
- 58 ページの「Oracle Solaris 11 プラットフォームからの Oracle Developer Studio 12.5 のアンインストール」
- 58 ページの「Oracle Developer Studio 12.5 の tar インストールのアンインストール」

Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームからの Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのアンインストール

このセクションでは、パッケージインストーラを使用して Oracle Developer Studio 12.5 がインストールされた場合に、これをアンインストールする方法について説明します。

以前のリリースの Oracle Developer Studio または Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合のアンインストール

以前の Oracle Developer Studio または Sun Studio ソフトウェアがインストールされている Oracle Solaris 10 または Linux システムに Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールした場合、アンインストーラの実行時に Oracle Developer Studio 12.5 のみが削除されます。アンインストーラは、インストールされているすべての Oracle Developer Studio 12.5 製品コンポーネントを削除します。

アンインストーラのローカル表示とリモート表示の選択

Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのアンインストール時には、アンインストーラをローカル表示またはリモート表示できます。

▼ リモート表示によるアンインストールの準備

1. **ディスプレイコンピュータで、コマンド行に次のように入力し、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。**

   xhost + *source-computer-name*

   source-computer-name には、ソースコンピュータ (ダウンロードしたファイルを含むコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. **`ssh -X` を使用してソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (ルート) になります。**

   `-X` オプションを付けて `ssh` を使用すると、X ディスプレイコンテンツをディスプレイコンピュータに戻すことができます。ソースコンピュータは、リモートからルートとしてログインすることを許可していない可能性があるので、下に示すように、自身のユーザー名を使用してログインし、ソースコンピュータへの接続後にルートになる必要があります。

   ```
   % ssh -X source-computer-name
   Password: your password-on-source-computer
   % su
   Password: root-password-on-source-computer
   ```

3. **ソースコンピュータで、DISPLAY 変数をディスプレイコンピュータに設定します。**

   C シェルを使用する場合は、次のように入力します。

   # setenv DISPLAY *display-computer-name*:*n.n*

   Bourne シェルを使用する場合は、次のように入力します。

   ```
   # DISPLAY=display-computer-name:n.n
   # export DISPLAY
   ```

   Korn シェルを使用する場合は、次のように入力します。

   # export DISPLAY=*display-computer-name*:*n.n*

   display-computer-name には、ディスプレイコンピュータで `/usr/bin/hostname` を実行したときに表示される名前を入力します。

   ディスプレイコンピュータで `echo $DISPLAY` と入力すると、2.0 のようなディスプレイ番号を確認できます。

アンインストーラを使用したソフトウェアのアンインストール

グラフィカルアンインストーラまたはコマンド行アンインストーラを使用して、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのインストール済みのすべてのコンポーネントをアンインストールできます。

▼ グラフィカルアンインストーラを使用した Oracle Solaris 10 および Linux からのアンインストール方法

1. **次のように入力して、スーパーユーザー (ルート) になります。**

```
% su
Password: root-password
```

2. **/opt/developerstudio12.5 などのインストールディレクトリに移動します。**

3. **次のように入力して、グラフィカルアンインストーラを起動します。**

```
# ./uninstall.sh &
```

4. **「サマリー」ページで「アンインストール」をクリックして、アンインストールを開始します。**
   ソフトウェアがアンインストールされると、「セットアップ完了」ページが表示されます。

5. **「完了」をクリックしてアンインストーラを終了します。**

▼ コマンド行アンインストーラを使用した Oracle Solaris 10 および Linux からのアンインストール方法

1. **次のように入力して、スーパーユーザー (ルート) になります。**

```
% su
Password: root-password
```

2. **/opt/developerstudio12.5 などのインストールディレクトリに移動します。**

3. **次のように入力して、コマンド行アンインストーラを起動します。**

```
# ./uninstall.sh --non-interactive
```

アンインストーラは、メッセージを表示せずに実行し、ソフトウェアがアンインストールされるとプロンプトを返します。

Oracle Solaris 11 プラットフォームからの Oracle Developer Studio 12.5 のアンインストール

Oracle Solaris 11 プラットフォームから Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェア全体をアンインストールするには、次のように入力します。

```
% sudo pkg uninstall 'developer/developerstudio-125*'
```

注記 - Oracle Developer Studio 12.5 をインストールすると、依存関係を満たすために、一部の Oracle Solaris 11 パッケージが Oracle Developer Studio パッケージとともにインストールされます。Oracle Developer Studio 12.5 をアンインストールしても、これらの Oracle Solaris 11 パッケージはアンインストールされません。

個々のコンポーネントをアンインストールするには、次のように入力します。ここで、*package-name* は、表7「Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名」に一覧表示されたパッケージのいずれかになります。

```
% sudo pkg uninstall 'developer/developerstudio-125/package-name'
```

一部のパッケージは、ほかのパッケージが依存関係を保持しているので、単独ではアンインストールできません。

Oracle Developer Studio 12.5 の tar インストールのアンインストール

tar ファイルを使用してインストールした場合、`/`*install-dir*`/developerstudio12.5` ディレクトリを削除することでソフトウェアをアンインストールできます。

♦ ♦ ♦ 第 7 章

7 インストールとアンインストールのトラブルシューティング

この章では、Oracle Developer Studio 12.5 のインストール時やアンインストール時に発生する可能性がある問題に対処する方法について説明します。

この章には、次の情報が含まれます。

- 59 ページの「一時ディレクトリがすべてのユーザーによる書き込みが可能でない場合にグラフィカルインストーラが失敗する」
- 60 ページの「一時ディレクトリが `/usr/local` にある場合に Oracle Linux でのインストールが失敗する」
- 60 ページの「グラフィカルインストーラの起動時に、GNOME エラーが発生することがある」
- 60 ページの「インストーラのロックファイルが原因でインストーラを起動できない場合がある」
- 60 ページの「失敗したインストールまたはアンインストールの対処」
- 63 ページの「NFS マウント済みファイルシステムでは、書き込み権限が設定されていない場合、インストールが失敗する」
- 63 ページの「インストールログファイルの表示」

一時ディレクトリがすべてのユーザーによる書き込みが可能でない場合にグラフィカルインストーラが失敗する

`TMPDIR` 環境変数がすべてのユーザーによる書き込みが可能でないディレクトリを指している場合、グラフィカルインストーラによるインストールが失敗します。この状態の発生を回避するには、`TMPDIR` 環境変数を設定解除するか、すべてのユーザーに書き込みを許可するディレクトリに設定してからインストーラを起動します。

この問題は、インストーラの `--tempdir` コマンド行オプションに、すべてのユーザーによる書き込みが可能でないディレクトリを指定した場合にも発生するため、すべてのユーザーによる書き込みが可能なディレクトリを指定してください。

一時ディレクトリが /usr/local にある場合に Oracle Linux でのインストールが失敗する

Oracle Enterprise Linux 6 で developerstudio.sh インストーラスクリプトにコマンド行オプション --tempdir /usr/local/tmp を使用すると、インストールはメッセージを表示せずに失敗します。これは、TMPDIR 環境変数が /usr/local にあるディレクトリを指定している場合にも発生します。

回避策は、/usr/local ディレクトリ以外にあるディレクトリを指定することです。

グラフィカルインストーラの起動時に、GNOME エラーが発生することがある

一部のシステムでは、グラフィカルインストーラを起動するときに GNOME エラーが発生する場合があります。このようなエラーのためにグラフィカルインストーラが起動しない場合は、コマンド行インストーラを使用してください。

インストーラのロックファイルが原因でインストーラを起動できない場合がある

インストーラがインストールを完了することなく中断または終了した場合、ロックファイルが原因でインストーラを再起動できない場合があります。インストーラを起動するときに、インストーラのインスタンスはすでに実行されているというメッセージが表示される場合、/.nbi ディレクトリからのロックファイルの削除が必要になる場合があります。

失敗したインストールまたはアンインストールの対処

Oracle Solaris 10 プラットフォームでは、インストーラは、インストールした Oracle Developer Studio 12.5 パッケージに関する情報を次の 2 つの場所に格納します。

- productregistry ファイル、Solaris Product Registry データベース
- システムルートディレクトリ (/) 内の .nbi ディレクトリ

Linux プラットフォームでは、インストーラは、インストールした Oracle Developer Studio 12.5 パッケージに関する情報を次の 2 つの場所に格納します。

- インストール済みパッケージのデータベース
- システムルートディレクトリ (/) 内の .nbi ディレクトリ

一部のパッケージが適切にインストールされていない場合、Oracle Developer Studio ソフトウェアの使用時に問題が発生します。また、追加のコンポーネントのインストール時や、ソフトウェアのアンインストール時に問題が発生する場合もあります。

たとえば、インストールが完了する前にインストーラが終了した場合、アンインストーラ (`uninstall.sh`) がインストールディレクトリに表示されない場合があります。または、`pkgadd` コマンドを使用して任意のパッケージをインストールした場合、`/.nbi` ディレクトリ内の `productregistry` ファイルまたは `product-cache` ディレクトリが破壊される場合があります。この場合、アンインストーラではパッケージをアンインストールできません。Oracle Solaris 製品レジストリで削除する必要があります。Oracle Developer Studio パッケージを削除する方法については、61 ページの「Oracle Solaris 10 プラットフォームで失敗したインストールまたはアンインストールの対処」を参照してください。

すべての製品ファイルが削除される前にアンインストーラが終了した場合、アンインストーラを再度実行しても残りのファイルは削除されません。残りのファイルを正しい方法で削除して、製品のアンインストールを完了する必要があります。

製品をアンインストールするために、インストールディレクトリを削除しないでください。パッケージは `productregistry` データベースと `/.nbi` ディレクトリに引き続き登録されているため、インストーラを実行できません。

アンインストーラを使用して失敗したアンインストールの対処

Oracle Developer Studio のパッケージがおそらく正しくインストールされており、インストールディレクトリ内にアンインストーラが存在していても、`/.nbi` が破壊されているためにアンインストーラが失敗する場合があります。この場合に、Oracle Developer Studio のパッケージとインストールディレクトリをアンインストーラに強制的に削除させるには、アンインストーラの起動時に `--force-uninstall` を指定します。

このオプションを使用してアンインストーラを実行した場合は、`/.nbi` ディレクトリからパッケージエントリが削除されず、それによって次の影響があります。

- アンインストールした Oracle Developer Studio リリースを再インストールするためにインストーラを実行した場合、インストールするコンポーネントを指定することはできず、以前インストールされていたすべてのパッケージがインストールされます。
- 任意の Oracle Developer Studio リリースのインストーラを実行すると、`/.nbi` ディレクトリが壊れていることが警告され、インストールを続行するか取り消すかを選択できます。

▼ Oracle Solaris 10 プラットフォームで失敗したインストールまたはアンインストールの対処

1. **次のように入力して、スーパーユーザーになります。**

```
su
Password: root-password
```

2. 次のように入力して、Oracle Solaris Product Registry ツールを起動します。

```
/usr/bin/prodreg &
```

3. ツールの左ペインで、「未分類のソフトウェア」ノードを展開します。

4. Oracle Developer Studio 12.5 を含むパッケージ名をすべて選択し、「アンインストール」をクリックします。手順に従ってパッケージを削除します。

5. 「終了」をクリックしてツールを終了します。

6. 次のように入力して、`/.nbi` ディレクトリを削除します。

```
rm -r /.nbi
```

▼ Linux プラットフォームで失敗したインストールまたはアンインストールの対処

1. 次のように入力して、スーパーユーザーになります。

```
su
Password: root-password
```

2. 次のように入力して、Oracle Developer Studio パッケージをすべて確認します。

```
rpm -q -a | grep developerstudio12.5
```

3. 次のように入力して、それぞれの Oracle Developer Studio 12.5 rpm パッケージを削除します。

```
rpm -e package-name
```

`developerstudio12.5-cc-12.5-1` のように、Oracle Developer Studio 12.5 rpm パッケージには `12.5` の接尾辞が付けられます。Sun Studio リリースからパッケージを削除しないでください。Sun Studio リリースには異なるサフィックスが付いています。

4. 次のように入力して、`/.nbi` ディレクトリを削除します。

```
rm -r /.nbi
```

NFS マウント済みファイルシステムでは、書き込み権限が設定されていない場合、インストールが失敗する

NFS マウント済みファイルシステムでインストールが失敗した場合、そのファイルシステムに対する書き込み権限を保有していることを確認してください。書き込み権は、次の手順を実行すると確認できます。NFS マウント済みファイルシステムでのインストール方法については、15 ページの「NFS マウント済みファイルシステムへのインストール」を参照してください。

1. 次のように入力して、書き込み権があるかどうかを確認します。

   touch /net/*remote-system***/opt/testfile**

   エラーメッセージが表示された場合、書き込み権はありません。次に例を示します。

   ```
   touch /net/harker/opt/testfile
   touch: /net/harker/opt/testfile cannot create
   ```

2. 書き込み権を持つ別のインストールディレクトリを選択するか、またはファイルシステムのアクセス権を変更するようにシステム管理者に依頼してください。

インストールログファイルの表示

Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアをインストールすると、インストールセッションの記録を含むログファイルが自動的に生成されます。ログファイルは `/.nbi/log` ディレクトリに格納されます。

♦ ♦ ♦ 付 録 A

Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームのインストーラ、アンインストーラ、install_patches ユーティリティーのコマンド行オプション

この付録では、パッケージインストーラとアンインストーラのすべてのオプションについて説明します。

グラフィカルインストーラのコマンド行オプション

次のコマンド行オプションは、グラフィカルインストーラを起動するときに有効です。

`--current-zone-only`	現在のゾーンのみにインストールします。インストーラを大域ゾーンで実行する場合、このオプションを使用すると、インストールする製品はそのゾーンでのみ使用可能になります。
`--help`	オプションに関する情報を表示します。
`--ignore-arch`	システムアーキテクチャーの確認を無効にします (Oracle Solaris システムのみ)
`--javahome` *directory*	インストーラを実行するときに directory 内の JDK を使用します。インストーラがシステムの標準の場所で JDK を見つけられない場合に、このオプションを使用して JDK の場所を示す必要があります。
`--libraries-only`	実行時ライブラリのみをインストールします。
`--locale` *locale*	指定した locale を使用して、インストーラのデフォルトロケールをオーバーライドします。有効なロケールは、`en` (英語)、`ja` (日本語)、`zh` (簡体字中国語) です。
`--nfs-server`	NFS サーバーインストールモードを使用します。インストーラはサーバーに必要な Oracle Solaris パッチが存在しているかどうかを確認せず、`/usr/bin` ディレクトリにシンボリックリンクを作成しません。
`--output` *output_file*	インストーラのすべての出力を、指定したファイルに書き込みます。
`--record` *state_file*`.xml`	コマンド行インストーラを使用して別のシステムでインストールを繰り返せるように、グラフィカルインストーラにインストーラセッションを記録します。このオプションは、製

	品コンポーネントのサブセットを複数システムにインストールする場合に特に役立ちます。
`--tempdir` *directory*	デフォルトで、インストーラは一時データを `/tmp` ディレクトリに抽出します。十分な空き容量がシステムの `/tmp` ディレクトリにない場合、インストーラ用の別のディレクトリを指定できます。
`--verbose`	詳細な出力をコンソールに書き込みます。

コマンド行インストーラのコマンド行オプション

次のコマンド行オプションは、`developerstudio.sh` コマンド行インストーラを起動するときに有効です。

`--create-symlinks`	Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアおよびマニュアルページへのシンボリックリンクを、`/usr/bin` ディレクトリと `/usr/share/man` ディレクトリに作成します。
`--current-zone-only`	現在のゾーンのみにインストールします。インストーラを大域ゾーンで実行する場合、このオプションを使用すると、インストールする製品はそのゾーンでのみ表示されます。
`--extract-installation-data` *directory*	インストールデータを抽出し、インストールを実行しません。
`--generate-desktop-distr`	デスクトップオペレーティングシステム用に構成された IDE (コードアナライザをインストールする場合はそれも) の配布を含む zip ファイルを生成します。`-desktop-distribution.zip` という zip ファイルが、Oracle Developer Studio インストールの `lib` ディレクトリに置かれます。
`--help`	オプションに関する情報を表示します。
`--ignore-arch`	システムアーキテクチャーの確認を無効にします (Oracle Solaris システムのみ)
`--install-components` *component_name,component_name,...*	指定されたコンポーネントだけをインストールします。有効な *component_name* は、`c-and-cpp-compilers`、`code-analyzer-tool`、`dbx-debugger`、`dbxtool`、`dmake`、`fortran-compiler`、`oic`、`performance-and-thread-analysis-tools`、`performance-library`、`studio-ide`、`japanese-localization`、および `simplified-chinese-localization` です。
`--installation-location` *directory*	Oracle Developer Studio ソフトウェアを、デフォルトのインストールディレクトリ `/opt` ではなく、指定したディレクトリにインストールします。
`--javahome` *directory*	インストーラを実行するときに directory 内の JDK を使用します。インストーラがシステムの標準の場所で JDK を見つけられない場合に、このオプションを使用して JDK の場所を示す必要があります。
`--libraries-only`	実行時ライブラリのみをインストールします。

`--locale` *locale*	指定した locale を使用して、インストーラのデフォルトロケールをオーバーライドします。有効なロケールは、`en` (英語)、`ja` (日本語)、`zh` (簡体字中国語) です。
`--nfs-server`	NFS サーバーインストールモードを使用します。インストーラはサーバーに必要な Oracle Solaris パッチが存在しているかどうかを確認せず、`/usr/bin` ディレクトリにシンボリックリンクを作成しません。
`--non-interactive`	コマンド行モードでインストーラを起動します。
`--print-components-description`	`-install-components` オプションに使用できるコンポーネント名を一覧表示します
`--silent-logs-dir` *directory*	インストーラのログファイルを、指定されたディレクトリにメッセージを表示せずに書き込みます。
`--state` *state_file* `.xml`	グラフィカルインストーラによって記録された状態ファイルを再生して、インストールセッションをメッセージを表示せずに繰り返します。このオプションを使用すると、コマンド行モードで製品コンポーネントのサブセットをインストールできます。
`--tempdir` *directory*	デフォルトで、インストーラは一時データを `/tmp` ディレクトリに抽出します。十分な空き容量がシステムの `/tmp` ディレクトリにない場合、インストーラ用の別のディレクトリを指定できます。
`--use-alternative-root` *directory*	デフォルトのルートディレクトリ `/` ではなく、指定したルートディレクトリにインストールします。代替ルートとして使用するディレクトリのフルパスを指定します。このオプションは、Oracle Solaris 10 を実行するシステムでのみ有効です。
`--verbose`	詳細な出力をコンソールに書き込みます。

アンインストーラのコマンド行オプション

次のオプションは、`uninstall.sh` アンインストーラを起動するときに有効です。

`--force-uninstall`	`/.nbi` ディレクトリを削除せずに、Oracle Developer Studio 12.5 パッケージとインストールディレクトリを削除します。
`--javahome` *directory*	アンインストーラを実行するときに directory 内の JDK を使用します。このオプションは、アンインストーラがシステムの標準の場所で JDK を見つけられないときに、それを指定するために必要になります。
`--locale` *locale*	指定した locale を使用して、アンインストーラのデフォルトロケールをオーバーライドします。有効なロケールは、`en` (英語)、`ja` (日本語)、`zh` (簡体字中国語) です。このオプションはグラフィカルアンインストーラでのみ有効です。
`--non-interactive`	アンインストーラをコマンド行モードで実行し、インストール済みのソフトウェアコンポーネントをアンインストールします。

`--output` *output_file*	アンインストーラのすべての出力を、指定したファイルに書き込みます。このオプションはグラフィカルアンインストーラでのみ有効です。
`--silent-logs-dir` *directory*	指定された *directory* にサイレントログを出力します。
`--tempdir` *directory*	デフォルトで、アンインストーラは一時データを `/tmp` ディレクトリに抽出します。十分な空き容量がシステムの `/tmp` ディレクトリにない場合、アンインストーラが使用する別のディレクトリを指定できます。
`--use-alternative-root` *directory*	デフォルトのルートディレクトリ `/` ではなく、指定したルートディレクトリからアンインストールします。このオプションは、コマンド行アンインストーラにのみ、かつ Oracle Solaris を実行するシステムでのみ有効です。
`--verbose`	詳細な出力をコンソールに書き込みます。

install_patches.sh ユーティリティーのコマンド行オプション

次のオプションは、`install_patches.sh` ユーティリティーを起動するときに有効です。

`-G`	パッチを現在のゾーンのパッケージにのみ追加します。ユーティリティーを大域ゾーンで実行する場合、このオプションを使用すると、パッチはそのゾーンでのみ使用可能になります。
`-p`	Oracle Developer Studio 製品のパッチをインストールします (ある場合)。このオプションを指定し、使用可能なパッチがない場合、そのことを示すメッセージが表示されます。
`-l` *locale*	指定した locale を使用して、ユーティリティーのデフォルトロケールをオーバーライドします。有効なロケールは、`en` (英語)、`ja` (日本語)、`zh` (簡体字中国語) です。
`-R` *directory*	パッチを、デフォルトのルートディレクトリ `/` ではなく、指定したルートディレクトリにインストールします。代替ルートとして使用するディレクトリのフルパスを指定します。
`-h`	オプションに関する情報を表示します。

♦ ♦ ♦ 付 録 B

Oracle Developer Studio でのコンポーネントとパッケージ名

この付録では、各プラットフォームの Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアを構成するコンポーネントとパッケージを一覧表示します。

- 表6「Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名」に、Oracle Solaris 10 のソフトウェアパッケージ構成とコンポーネント情報の一覧を示します。
- 表7「Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名」に、Oracle Solaris 11 のソフトウェアパッケージ構成とコンポーネント情報の一覧を示します。
- 表8「Oracle Linux および Red Hat Linux の Oracle Developer Studio 12.5 の RPM パッケージ名」に、Oracle Linux および Red Hat Linux の Oracle Developer Studio 12.5 RPM パッケージとコンポーネント情報の一覧を示します。

表 6 Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名

コンポーネント	パッケージ名
C++ コンパイラ	SPRO-cc++
C++ ライブラリ	SPRO-c++-libs
C コンパイラ	SPRO-cc
C および C ++ 実行時ライブラリ	SPRO-studio-gccrt
Fortran コンパイラ	SPRO-fortran
Fortran ライブラリ	SPRO-f90-libs
コードアナライザ	SPRO-code-analyzer
dbx デバッガ	SPRO-dbx
dbxtool グラフィカルデバッガ	SPRO-dbxtool
配布された Make	SPRO-dmake
IDE	SPRO-studio-ide
パフォーマンスアナライザとスレッドアナライザ	SPRO-performance-analyzer
数学ライブラリ	SPRO-math-libs
Performance Library	SPRO-perflib
Oracle Instant Client	SPRO-oic
	SPRO-oic-libs

コンポーネント	パッケージ名
サポートファイル	SPRO-backend
	SPRO-studio-common
	SPRO-studio-bin-links
ローカリゼーションパッケージ	SPRO-studio-ja
	SPRO-studio-zhCN
法的ファイル	SPRO-studio-legal

表 7 Oracle Solaris 11 用の Oracle Developer Studio 12.5 のパッケージ名

コンポーネント	パッケージ名
C++ コンパイラ	developerstudio-125/c++
C++ ライブラリ	developerstudio-125/library/c++-libs
C コンパイラ	developerstudio-125/cc
C ライブラリ	developerstudio-125/library/c-libs
C および C ++ 実行時ライブラリ	developerstudio-125/library/studio-gccrt
Fortran コンパイラ	developerstudio-125/fortran
Fortran ライブラリ	developerstudio-125/library/f90-libs
コードアナライザ	developerstudio-125/code-analyzer
dbx デバッガ	developerstudio-125/dbx
dbxtool グラフィカルデバッガ	developerstudio-125/dbxtool
配布された Make	developerstudio-125/dmake
IDE	developerstudio-125/studio-ide
パフォーマンスアナライザとスレッドアナライザ	developerstudio-125/performance-analyzer
数学ライブラリ	developerstudio-125/library/math-libs
Performance Library	developerstudio-125/library/perflib
Oracle Instant Client	developerstudio-125/oic
Oracle Instant Client ライブラリ	developerstudio-125/library/oic-libs
サポートファイル	developerstudio-125/backend
	developerstudio-125/studio-common
ローカリゼーションパッケージ	developerstudio-125/studio-ja
	developerstudio-125/studio-zhCH
法的ファイル	developerstudio-125/studio-legal

表 8 Oracle Linux および Red Hat Linux の Oracle Developer Studio 12.5 の RPM パッケージ名

コンポーネント	パッケージ名
C++ コンパイラ	developerstudio-c++-12.5-1.x86_64.rpm
C コンパイラ	developerstudio-cc-12.5-1.x86_64.rpm

コンポーネント	パッケージ名
C および C++ ライブラリ	developerstudio-c++-libs-12.5-1.x86_64.rpm
	developerstudio-compiler-oslibs-12.5-1.x86_64.rpm
	developerstudio-studio-gccrt-12.5-1.x86_64.rpm
Fortran コンパイラ	developerstudio-fortran-12.5-1.x86_64.rpm
Fortran ライブラリ	developerstudio-f90-libs-12.5-1.x86_64.rpm
コードアナライザ	developerstudio-code-analyzer-12.5-1.x86_64.rpm
dbx デバッガ	developerstudio-dbx-12.5-1.x86_64.rpm
dbxtool グラフィカルデバッガ	developerstudio-dbxtool-12.5-1.x86_64.rpm
配布された Make	developerstudio-dmake-12.5-1.x86_64.rpm
IDE	developerstudio-studio-ide-12.5-1.x86_64.rpm
パフォーマンスアナライザとスレッドアナライザ	developerstudio-performance-analyzer-12.5-1.x86_64.rpm
Performance Library	developerstudio-perflib-12.5-1.x86_64.rpm
	developerstudio-perflib-rtlibs-12.5-1.x86_64.rpm
Oracle Instant Client	developerstudio-oic-12.5-1.x86_64.rpm
	developerstudio-oic-libs-12.5-1.x86_64.rpm
サポートファイル	developerstudio-backend-12.5-1.x86_64.rpm
	developerstudio-studio-common-12.5-1.x86_64.rpm
ローカリゼーションパッケージ	developerstudio-ja-12.5-1.x86_64.rpm
	developerstudio-zhCN-12.5-1.x86_64.rpm
法的ファイル	developerstudio-studio-legal-12.5-1.x86_64.rpm

♦ ♦ ♦ 付 録 C

Oracle Solaris 10 プラットフォームのパッチ識別番号と説明

Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアでは、Oracle Solaris 10 用のオペレーティングシステムパッチが提供されています。今回のリリースに含まれるコンパイラおよびツールを正しく動作させるには、これらのパッチが必要です。この付録では、このリリースに含まれている Oracle Solaris 10 のパッチを一覧表示します。

これらのパッチをシステムにインストールしていない場合は、`install_patches.sh` スクリプトを使用してインストールできます。このスクリプトは、インストーラのあるディレクトリに含まれます。詳細は、21 ページの「必要な Oracle Solaris 10 パッチのインストール」を参照してください。

システムにインストールされているパッチのバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。ここで、*patch-id* はバージョン番号を除いたパッチ番号になります。

```
% showrev -p | grep patch-id
```

たとえば、次のコマンドは、パッチ 118683 がバージョン 07 であり、バージョン 13 が必要なので、このパッチを更新する必要があることを示します。

```
% showrev -p | grep 118683
Patch: 118683-07 Obsoletes:  Requires:  Incompatibles:  Packages: SUNWsprot
```

表9「SPARC システム版 Oracle Solaris 10 用の必須パッチ」に、SPARC システム版 Oracle Solaris 10 用の必須パッチのパッチ識別番号と説明を示します。

表10「x86 システム版 Oracle Solaris 10 用の必須パッチ」に、x86 システム版 Oracle Solaris 10 用の必須パッチのパッチ識別番号と説明を示します。

表 9 SPARC システム版 Oracle Solaris 10 用の必須パッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
118683-15	プロファイリングライブラリおよびアセンブラのパッチ
119963-34	C++ 用 共用ライブラリのパッチ
119966-02	数学ライブラリ (`libm`、`libmvec`) のパッチ
120753-16	マイクロタスキングライブラリ (`libmtsk`) のパッチ
152226-01	Fortran 実行時サポートライブラリのパッチ
152228-01	Sun パフォーマンスライブラリ (`libsunperf`) のパッチ

表 10 x86 システム版 Oracle Solaris 10 用の必須パッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
119961-16	プロファイリングライブラリおよびアセンブラのパッチ
119964-34	C++ 用 共用ライブラリのパッチ
119967-02	数学ライブラリ (`libm`、`libmvec`) のパッチ
120754-16	マイクロタスキングライブラリ (`libmtsk`) のパッチ
152227-01	Fortran 実行時サポートライブラリのパッチ
152229-01	Sun パフォーマンスライブラリ (`libsunperf`) のパッチ

♦ ♦ ♦ 付 録 D

Oracle Developer Studio 12.5 コンポーネントのバージョン番号

この付録では、Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号を示します。

表 11 Oracle Developer Studio 12.5 コンポーネントのバージョン番号

コンポーネント	バージョン番号
C コンパイラ	5.14
C++ コンパイラ	5.14
C++ 標準ライブラリ	デフォルト (libCstd)
GCC C++ 11 実行時ライブラリおよびヘッダー	5.1.0
コードアナライザ	12.5
dbx デバッガ	8.1
dbxtool	12.5
dmake	8.3
Fortran 95 コンパイラ	8.8
IDE	12.5
OpenMP サポート	4.1
パフォーマンスアナライザ	12.5
STLport	4.5.3
Oracle Developer Studio Performance Library	2016
スレッドアナライザ	12.5

索引

あ

アンインストール
  リモート表示の使用, 56
アンインストール, 失敗, 対処, 60
  Linux プラットフォームでの, 62
  Oracle Solaris 10 プラットフォームでの, 61
インストーラのロックファイル, 60
インストール
  1 つのゾーンに
    Oracle Solaris 10 システム上, 19
  NFS マウント済みファイルシステムでの失敗, 63
  Oracle Solaris 10 または Linux システムでの代替ルートディレクトリへの, 18
  Oracle Solaris 10 または Linux シングルユーザーシステムでの, 17
  tar インストールの抽出後に必要な Oracle Solaris 10 パッチ, 50
  同じアーキテクチャーのクライアントで使用するための Oracle Solaris 10 または Linux サーバーでの, 17
  概要
    Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォーム, 13
  カスタマイズ
    Oracle Solaris 10 または Linux システムでの, 20
  クライアントでの必要な Oracle Solaris 10 パッチ, 21
  異なるアーキテクチャーのクライアントで使用するための Oracle Solaris 10 または Linux サーバーでの, 17
  サーバーに必要な Oracle Solaris 10 パッチ, 21
  失敗, 対処, 60
    Linux プラットフォームでの, 62
    Oracle Solaris 10 プラットフォームでの, 61
  ゾーンに
    Oracle Solaris 10 システムでの, 17
    Oracle Solaris 11 システムでの, 42
  複数の Oracle Solaris 10 または Linux システムでの, 17
  複数の Oracle Solaris 11 システムへの, 42
  リモート表示の使用, 14
  ローカル表示の使用, 14
インストール手順
  Oracle Solaris 10 または Linux, 18
インストール方法, 選択
  Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームでの, 16
インストールログファイル, 63

か

グラフィカルアンインストーラ, 57
グラフィカルインストーラ
  Oracle Solaris 10 または Linux に実行時ライブラリだけをインストールするために使用, 23
  Oracle Solaris 10 または Linux への Oracle Developer Studio ソフトウェアのインストール, 18
  一時ディレクトリがすべてのユーザーによる書き込みが可能でない場合に失敗, 59
  起動時の GNOME エラー, 60
コードアナライザ
  インストール用のディストリビューションの生成
    Oracle Solaris 10 または Linux システムでの, 18
    Oracle Solaris 10 または Linux デスクトップシステムでの, 21
    Oracle Solaris 11 システムでの, 42
    デスクトップシステムでの, 19
  ディストリビューションのインストール
    Oracle Solaris 10 または Linux システムでの, 18

Oracle Solaris 11 システムでの, 42
コマンド行アンインストーラ, 57
コマンド行インストーラ
Oracle Solaris 10 または Linux システムで使用, 20
Oracle Solaris 10 または Linux システムへ実行時ライブラリのみをインストールするために使用, 23
コマンド行オプション
Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームの install_patches.sh ユーティリティー用, 68
Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームのアンインストーラ用, 67
Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームのグラフィカルインストーラ用, 65
Oracle Solaris 10 および Linux プラットフォームのコマンド行インストーラ用, 66
コンポーネントのバージョン番号, 75

さ

実行時ライブラリのインストール
グラフィカルインストーラ, 23
コマンド行インストーラ, 23
証明書と鍵
Oracle Solaris 11 プラットフォームへのインストール, 42
ダウンロード, Oracle Solaris 11 用, 41
ソースコンピュータ, 14
ゾーン, インストール
Oracle Solaris 10 システム上, 19
ゾーン, にインストール
Oracle Solaris 10 システムでの, 17
Oracle Solaris 11 システムでの, 42

た

ディスプレイコンピュータ, 14

は

パッケージ名, 69
パッチ
オペレーティングシステム, Oracle Solaris 10 プラットフォームの Oracle Developer Studio 12.5 ソフトウェアが必要とする, 73
表示
リモート, アンインストーラの, 56
リモート、インストーラの, 14
ローカル, アンインストーラの, 56
ローカル, インストーラの, 14

ま

マニュアルページ, アクセス, 51

ら

リモート表示
アンインストーラの , 56
インストーラの, 14
ローカル表示
アンインストーラの, 56
インストーラの, 14

D

dbxtool
インストール用のディストリビューションの生成
Oracle Solaris 10 または Linux デスクトップシステムでの, 21

I

IDE
インストール用のディストリビューションの生成
Oracle Solaris 10 または Linux システムでの, 18
Oracle Solaris 10 または Linux デスクトップシステムでの, 21
Oracle Solaris 11 システムでの, 42
デスクトップシステムでの, 19
ディストリビューションのインストール
Oracle Solaris 11 システムでの, 18, 42
Image Packaging System (IPS), Oracle Solaris 11 プラットフォームへの Oracle Developer Studio のインストール, 41
IPS, Oracle Solaris 11 プラットフォームへの Oracle Developer Studio のインストール, 41

L

LD_LIBRARY_PATH 環境変数, 52

M

MANPATH 環境変数, 設定, 51

N

.nbi ディレクトリ, 60
NFS マウント済みファイルシステム, にインストール, 15

O

Oracle Developer Studio コンパイラおよびツール, アクセス, 51
Oracle Solaris 10 または Linux サーバー, 同じアーキテクチャーのクライアントで使用するためのインストール, 17
Oracle Solaris 10 または Linux システムでの代替ルートディレクトリ, へのインストール, 18
Oracle Solaris 10 または Linux のシングルユーザーシステム, にインストール, 17
Oracle Solaris 11 システムへのインストールに必要な特権, 26

P

PATH 環境変数, 設定, 51
productregistry ファイル, 60